

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成23年10月1日
(第54期) 至 平成24年9月30日

O B A R A G R O U P 株式会社

(E02040)

第54期（自平成23年10月1日 至平成24年9月30日）

有価証券報告書

- 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

O B A R A G R O U P 株式会社

目 次

	頁
第54期 有価証券報告書	
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	6
4 【関係会社の状況】	8
5 【従業員の状況】	10
第2 【事業の状況】	11
1 【業績等の概要】	11
2 【生産、受注及び販売の状況】	13
3 【対処すべき課題】	14
4 【事業等のリスク】	14
5 【経営上の重要な契約等】	16
6 【研究開発活動】	16
7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	17
第3 【設備の状況】	19
1 【設備投資等の概要】	19
2 【主要な設備の状況】	20
3 【設備の新設、除却等の計画】	21
第4 【提出会社の状況】	22
1 【株式等の状況】	22
2 【自己株式の取得等の状況】	25
3 【配当政策】	26
4 【株価の推移】	26
5 【役員の状況】	27
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	29
第5 【経理の状況】	37
1 【連結財務諸表等】	38
2 【財務諸表等】	73
第6 【提出会社の株式事務の概要】	97
第7 【提出会社の参考情報】	98
1 【提出会社の親会社等の情報】	98
2 【その他の参考情報】	98
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	99
監査報告書	
内部統制報告書	
確認書	

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年12月25日

【事業年度】 第54期(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

【会社名】 OBARA GROUP株式会社

【英訳名】 Obara Group Incorporated

【代表者の役職氏名】 取締役社長 小原 康嗣

【本店の所在の場所】 神奈川県大和市中央林間三丁目2番10号

【電話番号】 046(271)2111(代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 高井 清

【最寄りの連絡場所】 神奈川県大和市中央林間三丁目2番10号

【電話番号】 046(271)2123

【事務連絡者氏名】 経理部長 高井 清

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成20年9月	平成21年9月	平成22年9月	平成23年9月	平成24年9月
売上高 (百万円)	46,225	22,451	28,459	35,460	32,259
経常利益又は経常損失(△) (百万円)	5,851	△1,593	2,379	4,256	4,604
当期純利益又は当期純損失(△) (百万円)	3,109	△2,990	699	3,382	2,718
包括利益 (百万円)	—	—	—	2,606	3,572
純資産額 (百万円)	25,161	19,098	19,031	21,210	24,147
総資産額 (百万円)	36,355	26,592	30,370	31,983	35,103
1株当たり純資産額 (円)	1,176.39	944.23	936.75	1,047.44	1,183.67
1株当たり当期純利益金額又は当期純損失金額(△) (円)	149.45	△152.54	35.98	174.08	139.90
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	67.3	69.0	59.9	63.6	65.5
自己資本利益率 (%)	13.0	—	3.8	17.5	12.5
株価収益率 (倍)	5.8	—	21.3	5.3	6.8
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	7,565	1,594	1,523	3,208	2,439
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△1,547	△1,843	△28	39	△485
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△5,114	△396	△586	△1,755	△660
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	4,404	3,306	4,086	5,224	6,692
従業員数 (名)	1,631	1,553	1,530	1,628	1,648

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
3 従業員数は就業人員であります。
4 第51期の自己資本利益率及び株価収益率については、当期純損失のため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成20年 9 月	平成21年 9 月	平成22年 9 月	平成23年 9 月	平成24年 9 月
売上高又は営業収益 (百万円)	11,079	5,814	5,886	6,776	1,171
経常利益又は経常損失 (百万円) (△)	1,659	△558	△71	736	617
当期純利益又は当期純損失 (百万円) (△)	1,191	△1,713	△109	1,040	641
資本金 (百万円)	1,925	1,925	1,925	1,925	1,925
発行済株式総数 (株)	20,869,380	20,869,380	20,869,380	20,869,380	20,869,380
純資産額 (百万円)	12,956	9,206	8,688	9,332	9,404
総資産額 (百万円)	16,386	13,634	12,997	12,086	11,436
1株当たり純資産額 (円)	622.76	473.80	447.15	480.30	484.01
1株当たり配当額 (円) (内1株当たり中間配当額) (円)	40 (20)	40 (30)	20 (10)	30 (10)	30 (10)
1株当たり当期純利益金額 又は当期純損失金額 (円) (△)	57.25	△87.38	△5.65	53.53	33.02
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	79.1	67.5	66.9	77.2	82.2
自己資本利益率 (%)	9.3	—	—	11.5	6.8
株価収益率 (倍)	15.3	—	—	17.4	28.8
配当性向 (%)	69.9	—	—	37.4	90.8
従業員数 (名)	337	323	209	202	22

- (注) 1 売上高又は営業収益には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
3 従業員数は就業人員であります。
4 第51期及び第52期の自己資本利益率、株価収益率及び配当性向については、当期純損失のため記載しておりません。
5 第51期1株当たり配当額40円には、設立50周年記念配当10円が含まれております。
6 第52期の従業員数が第51期と比較して114名減少しておりますが、その減少の大部分は、第51期に事業構造改革の一環として実施した従業員の早期退職によるものであります。
7 第54期の経営指標等が大幅に変動した要因は、平成23年10月3日付で持株会社体制へ移行したことによるものであります。また、売上高より営業収益に表示を変更しております。

2 【沿革】

年月	概要
昭和33年12月	小原金属工業(株)を東京都中央区日本橋両国22番地に設立し、抵抗溶接用電極の製造販売を開始。
昭和36年5月	本社を東京都中央区日本橋より東京都港区芝浜松町4丁目2番地(現 港区芝大門)に移転。
昭和41年11月	可搬式溶接ガン(PSWガン)の製造販売を開始。
昭和44年2月	本社社屋を東京都大田区西六郷に新築、本社を移転。
昭和46年3月	神奈川県綾瀬市に相模工場を新設。
昭和46年5月	米国スピードファムと遊離砥粒による高速平面研削機製造(現在 半導体・ディスク産業向け研磨装置の製造販売)を目的としたスピードファム(現 連結子会社)を設立(50%出資)。
昭和46年7月	ロボットガンの製造販売を開始。
昭和54年12月	アーク溶接用トーチ(ミグガン)の製造販売を開始。
昭和62年8月	米国ハーキュリー社から工場を購入し、溶接機器の製造販売拠点としてHERCULES DIVISION(現 OBARA CORP. USA)を開設。
昭和62年9月	韓国の溶接機器の製造販売拠点としてOBARA KOREA CORP.(現 連結子会社)を設立(50%出資)。
昭和63年3月	トランス内蔵ロボットガンの製造販売を開始。
昭和63年8月	社名 小原金属工業(株)を小原(株)(定款上の商号 OBARA(株))に変更。
昭和63年10月	米国ケンタッキー州に溶接機器の製造販売拠点としてCINCINNATI PLANT(現 OBARA CORP. USA)を開設。
平成2年1月	マレーシアの溶接機器の販売拠点としてOBARA(MALAYSIA)SDN. BHD.(現 連結子会社)を設立(100%出資)。
平成4年10月	小原サプライズ(株)を吸収合併。
平成6年5月	本社を東京都大田区より神奈川県綾瀬市に移転。
平成6年12月	中国の溶接機器の製造販売拠点としてOBARA(NANJING)MACHINERY & ELECTRIC CO.,LTD.(現 連結子会社)を設立(100%出資)。
平成7年12月	国際品質保証規格である「ISO-9001」の認証を取得。
平成8年10月	米国のCINCINNATI PLANTとHERCULES DIVISIONをOBARA CORP. USA(現 連結子会社)として現地法人化(100%出資)。
平成8年10月	タイの溶接機器の製造販売拠点としてOBARA(THAILAND)CO., LTD.(現 連結子会社)を設立(49%出資、現在91.5%)。
平成10年6月	日本証券業協会に店頭登録銘柄として株式公開。
平成10年6月	小原レーザ(株)(旧ピーエスエル(株))の株式(62.5%)を取得。
平成11年9月	洋光産業(株)(現 連結子会社)の株式(100%)を取得。
平成12年5月	インドに溶接機器の販売拠点としてOBARA CORP. INDIA 支店(現 連結子会社)を設立。
平成12年7月	小原レーザ(株)(旧ピーエスエル(株))の株式(37.5%)を追加取得。
平成12年8月	スピードファム(株)の株式(50%)を追加取得。
平成13年9月	中国上海市に溶接機器の製造販売拠点としてOBARA(SHANGHAI)CO.,LTD.(現 連結子会社)を設立(100%出資)。
平成13年9月	中国上海市に中国市場向け研磨装置の製造販売拠点としてSPEEDFAM MECHTRONICS(SHANGHAI)LTD.(現 連結子会社)を設立(100%出資)。
平成14年10月	OBARA CORP. USA(現 連結子会社)メキシコ支店をOBARA MEXICO, S. DE R. L. DE C. V.(現 連結子会社)として現地法人化。
平成15年2月	小原レーザ(株)(旧ピーエスエル(株))の当社への営業譲渡。
平成15年8月	オーストラリアに溶接機器の製造販売拠点(現 販売拠点)としてOBARA AUSTRALIA PTY. LTD.(現 連結子会社)を設立(100%出資)。

年月	概要
平成18年3月	溶接機器のインド支店をOBARA INDIA PVT LTD. (現 連結子会社)として現地法人化(100%出資)。
平成18年8月	東京証券取引所市場第一部に株式を上場。
平成19年4月	スピードファム(株)の韓国支店をSPEEDFAM KOREA LTD. (現 連結子会社)として現地法人化(100%出資)。
平成20年2月	ロシアに溶接機器の販売拠点としてLLC OBARA RUS(現 連結子会社)を設立(100%出資)。
平成21年3月	環境規格である「ISO-14001」の認証を取得。
平成23年10月	社名 OBARA(株)をOBARA GROUP(株)に変更。
平成23年10月	持株会社(当社)と事業会社に分社。
平成23年10月	本社を神奈川県綾瀬市より神奈川県大和市に移転。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、子会社22社及び関連会社1社で構成されており、溶接機器関連事業及び平面研磨装置関連事業を主な内容として展開しております。

当社グループにおける主な事業内容とグループを構成している各社の当該事業における位置づけ及びセグメントとの関連は、次のとおりであります。

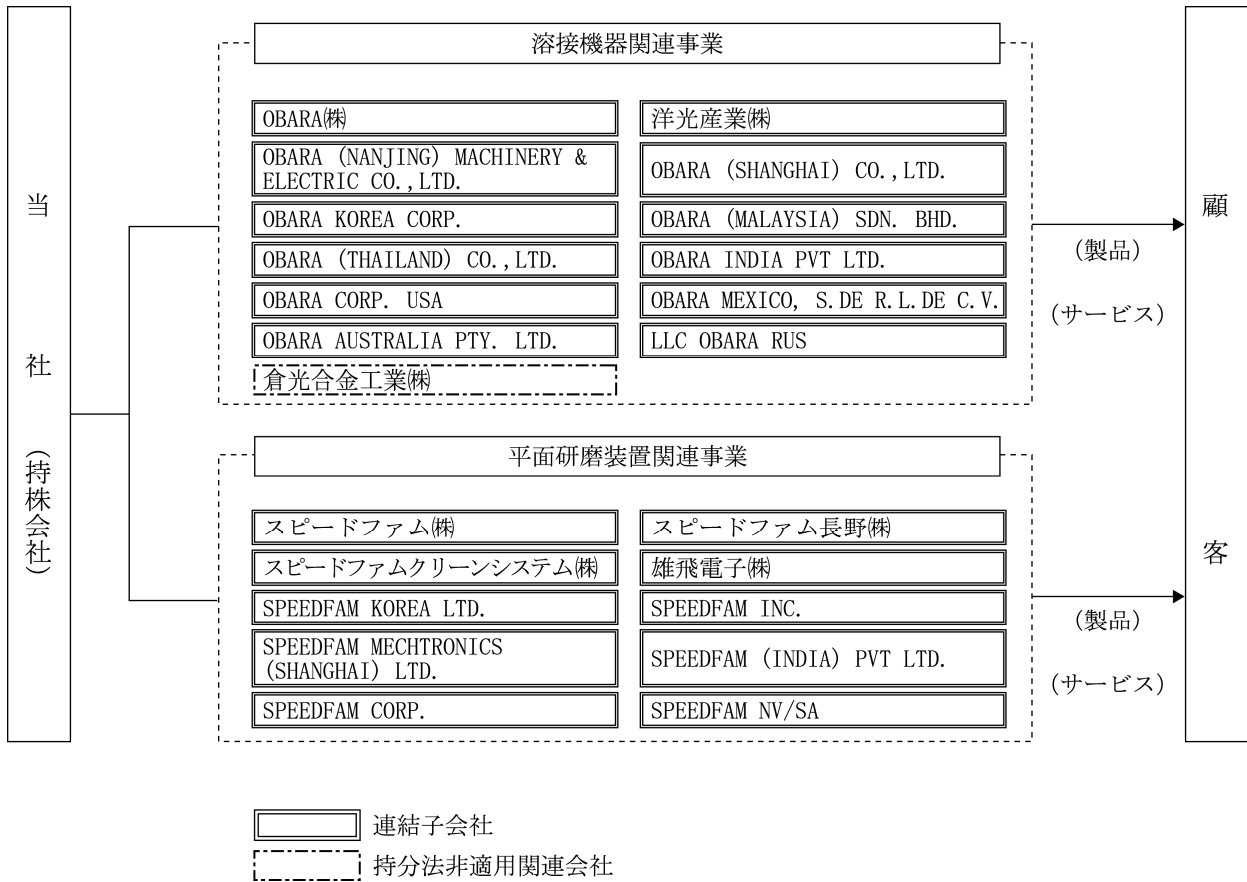
なお、事業区分はセグメント情報の区分と同一の区分であります。

(1) セグメント別の子会社・関連会社の主要な事業内容及び子会社名・関連会社名

事業区分	内 容	会 社 名
溶接機器関連事業	主に自動車ボディー溶接向けの抵抗溶接機器の製造販売	OBARA(株) 洋光産業(株) OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD. OBARA (SHANGHAI) CO., LTD. OBARA KOREA CORP. OBARA (THAILAND) CO., LTD. OBARA (MALAYSIA) SDN. BHD. OBARA INDIA PVT LTD. OBARA CORP. USA OBARA MEXICO, S. DE R. L. DE C. V.
	主に自動車ボディー溶接向けの抵抗溶接機器の販売	OBARA AUSTRALIA PTY. LTD. LLC OBARA RUS
	外注加工	倉光合金工業(株)
平面研磨装置関連事業	主にシリコンウェーハ、水晶、ガラスディスク向けの平面研磨装置及び消耗品の製造販売	スピードファム(株) スピードファム長野(株) スピードファムクリーンシステム(株) 雄飛電子(株) SPEEDFAM INC. SPEEDFAM MECHTRONICS (SHANGHAI) LTD. SPEEDFAM (INDIA) PVT LTD.
	主にシリコンウェーハ、水晶、ガラスディスク向けの平面研磨装置及び消耗品の販売	SPEEDFAM KOREA LTD. SPEEDFAM CORP. SPEEDFAM NV/SA

※SPEEDFAM NV/SAは、平成24年11月30日をもって清算いたしました。

以上の当社グループを事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



※SPEEDFAM NV/SAは、平成24年11月30日をもって清算いたしました。

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金 (百万円)	主要な事業の 内容	議決権の 所有(被所有)割合		関係内容
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)	
(連結子会社) OBARA(株) (注) 2、4	山梨県 笛吹市	99	溶接機器 関連事業	100.0	—	役員の兼任等 資金援助
OBARA CORP. USA	Michigan U. S. A.	千US\$ 1	溶接機器 関連事業	100.0	—	役員の兼任等
OBARA (MALAYSIA) SDN. BHD.	Selangor Malaysia	千マレーシア リンギット 110	溶接機器 関連事業	100.0	—	役員の兼任等
洋光産業(株)	広島県 広島市西区	10	溶接機器 関連事業	100.0	—	役員の兼任等
OBARA (THAILAND) CO., LTD.	Chacoengsao Thailand	千タイバーツ 28,000	溶接機器 関連事業	91.5	—	—
OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD. (注) 2、4	南京市 中華人民共和国	千中国元 108,470	溶接機器 関連事業	100.0	—	役員の兼任等
OBARA (SHANGHAI) CO., LTD. (注) 2	上海市 中華人民共和国	千中国元 37,362	溶接機器 関連事業	100.0	—	役員の兼任等
OBARA KOREA CORP. (注) 2、4、6	Hwaseong-si Korea	千WON 1,907,440	溶接機器 関連事業	50.0	—	役員の兼任等 資金援助
OBARA MEXICO, S. DE R. L. DE C. V.	Aguascalientes Mexico	千メキシコペソ 3	溶接機器 関連事業	100.0 (99.0)	—	役員の兼任等 資金援助
OBARA AUSTRALIA PTY. LTD.	Victoria Australia	千A \$ 1,000	溶接機器 関連事業	100.0	—	—
OBARA INDIA PVT LTD.	Pune India	千インドルピー 8,500	溶接機器 関連事業	100.0	—	役員の兼任等
LLC OBARA RUS	Sankt- Petersburg Russia	千ロシアルーブル 1,200	溶接機器 関連事業	100.0	—	—
スピードファム(株) (注) 2、4	神奈川県 綾瀬市	99	平面研磨装置 関連事業	100.0	—	役員の兼任等 資金援助
スピードファム長野(株)	長野県 佐久市	98	平面研磨装置 関連事業	98.5 (98.5)	—	役員の兼任等 資金援助
スピードファムクリーン システム(株)	神奈川県 綾瀬市	88	平面研磨装置 関連事業	100.0 (100.0)	—	役員の兼任等
SPEEDFAM INC. (注) 2、4	新竹県湖口郷 台湾	千NT\$ 61,000	平面研磨装置 関連事業	100.0 (100.0)	—	役員の兼任等
SPEEDFAM (INDIA) PVT LTD.	Navi Mumbai India	千インドルピー 19,000	平面研磨装置 関連事業	95.8 (95.8)	—	役員の兼任等
SPEEDFAM MECHTRONICS (SHANGHAI) LTD. (注) 2	上海市 中華人民共和国	千中国元 20,692	平面研磨装置 関連事業	100.0 (100.0)	—	役員の兼任等
SPEEDFAM CORP.	Illinois U. S. A.	千US\$ 250	平面研磨装置 関連事業	100.0 (100.0)	—	役員の兼任等
SPEEDFAM NV/SA (注) 8	Zaventem Belgium	千ユーロ 70	平面研磨装置 関連事業	100.0 (100.0)	—	役員の兼任等
SPEEDFAM KOREA LTD.	Gwacheon Korea	千WON 800,000	平面研磨装置 関連事業	100.0 (100.0)	—	役員の兼任等
雄飛電子(株)	東京都 稲城市	20	平面研磨装置 関連事業	100.0 (100.0)	—	役員の兼任等

- (注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。
 2 特定子会社であります。
 3 有価証券届出書又は有価証券報告書を提出している会社はありません。
 4 OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD.、OBARA KOREA CORP.、OBARA(株)、スピードファム(株)及び SPEEDFAM INC. については、売上高(連結会社相互間の売上を除く)の連結売上高に占める割合が10%を超えております。

主な損益情報等

OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD.

①売上高	7,074百万円
②経常利益	974百万円
③当期純利益	820百万円
④純資産額	3,542百万円
⑤総資産額	4,818百万円

OBARA KOREA CORP.

①売上高	4,241百万円
②経常利益	603百万円
③当期純利益	560百万円
④純資産額	2,217百万円
⑤総資産額	4,164百万円

OBARA(株)

①売上高	7,520百万円
②経常利益	581百万円
③当期純利益	242百万円
④純資産額	2,570百万円
⑤総資産額	3,608百万円

スピードファム(株)

①売上高	5,442百万円
②経常利益	1,405百万円
③当期純利益	1,082百万円
④純資産額	3,950百万円
⑤総資産額	5,539百万円

SPEEDFAM INC.

①売上高	3,845百万円
②経常利益	1,145百万円
③当期純利益	960百万円
④純資産額	3,338百万円
⑤総資産額	5,914百万円

- 5 「議決権の所有(被所有)割合」欄の(内書)は間接所有であります。
 6 所有割合は、100分の50以下であります。実質的に支配しているため子会社としております。
 7 連結財務諸表に重要な影響を与えている債務超過の状況にある関係会社はありません。
 8 SPEEDFAM NV/SAIは、平成24年11月30日をもって清算いたしました。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年9月30日現在

セグメントの名称	従業員数 (名)
溶接機器関連事業	1,189
平面研磨装置関連事業	437
全社 (共通)	22
合計	1,648

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 全社 (共通) として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成24年9月30日現在

従業員数 (名)	平均年齢 (歳)	平均勤続年数 (年)	平均年間給与 (千円)
22	48.8	15.6	7,493

- (注) 1 従業員数は就業人員であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
3 提出会社の従業員数は全てセグメントの「全社 (共通)」に含まれるため、合計人数のみ記載しております。
4 従業員数が前期末に比べ180名減少しましたのは、平成23年10月3日付の会社分割により持株会社へ移行したことによるものであります。

(3) 労働組合の状況

当社の連結子会社でありますOBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD. 及びOBARA (SHANGHAI) CO., LTD. には労働組合があります。なお、当社及びその他の連結子会社には労働組合はありませんが、労使関係は安定しており、特記すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度における世界経済は、米国・アジア地域における経済活動の軟化や欧州諸国における財政の先行き不透明感を背景とした経済活動の減速傾向などにより、全体として混沌とした状況で推移しました。

我が国経済につきましては、依然として楽観できない状況が続いたものの、企業収益の改善や生産活動に一部回復の動きが見られるとともに、個人消費が緩やかながら増加するなど、上向きの動きが見られました。

このような状況の下、当社グループと深く関わる自動車業界につきましては、アジア地域での自動車需要の拡大を背景として設備増強が行われるとともに、生産活動についても総じて堅調な動きが見られました。一方、同じく当社グループと深く関わるエレクトロニクス業界では、全体として民生用エレクトロニクス製品の減速傾向を受け、設備投資及び生産活動は、落ち着いた状況が続きました。

当社グループは、このような経営環境に対応するため、各市場動向に応じ、設備品及び消耗品の拡販に努め、ローカルニーズの製品開発を加速させるとともに、技術革新・次世代装置など高付加価値製品の開発にも注力してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の業績は、売上高322億59百万円(前年同期比9.0%減)、営業利益44億69百万円(前年同期比3.0%増)、経常利益46億4百万円(前年同期比8.2%増)、当期純利益は、法人税等の増加や少数株主利益の増加などにより、27億18百万円(前年同期比19.6%減)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

① 溶接機器関連事業

溶接機器関連事業につきましては、取引先である日系及び欧米系の自動車メーカーを中心に、アジア地域などで積極的な増産投資が行われ、世界各地域の自動車生産は総じて高水準となりました。このような環境の下、当部門として設備品の需要拡大への対応並びに消耗品の拡販に努めたことなどにより、業績は好調に推移しました。

この結果、部門売上高は212億51百万円(前年同期比16.6%増)となり、部門営業利益は38億16百万円(前年同期比71.8%増)となりました。

② 平面研磨装置関連事業

平面研磨装置関連事業につきましては、取引先であるシリコンウェーハなどのエレクトロニクス関連素材において、景気回復が全般的には足踏みする中、一部に回復の兆しも見られました。

このような環境の下、当部門として拡販活動を適宜展開し、業績は当年度内では改善傾向にあるものの、前年同期比では減収減益となりました。

この結果、部門売上高は110億11百万円(前年同期比36.1%減)、部門営業利益は9億90百万円(前年同期比53.3%減)となりました。

(補足)

平成23年10月3日付の持株会社体制への移行に伴い、当連結会計年度より報告セグメントに配分していない全社費用(3億34百万円)が発生しております。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は66億92百万円と、前連結会計年度末に比べて14億68百万円増加いたしました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

税金等調整前当期純利益が44億2百万円、減価償却費及びその他の償却費が5億87百万円、減損損失が94百万円、関係会社整理損失引当金の増加額が1億6百万円、前受金の増加額が4億67百万円となった一方、売上債権の増加額が8億25百万円、たな卸資産の増加額が2億43百万円、仕入債務の減少額が7億22百万円、法人税等の支払額が14億31百万円発生したことなどにより、差引24億39百万円の資金の増加となりましたが、前連結会計年度に比べ7億69百万円の収入減少となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

定期預金の純減少額が1億4百万円、有形固定資産の売却による収入が10百万円となった一方、有形固定資産の取得による支出が5億86百万円発生したことなどにより、差引4億85百万円の資金の減少となり、前連結会計年度に比べ5億25百万円の支出増加となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

長期借入金の返済による支出が73百万円、配当金の支払額5億82百万円などにより、差引6億60百万円の資金の減少となりましたが、前連結会計年度に比べ10億94百万円の支出減少となりました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
溶接機器関連事業	17,608	+11.9
平面研磨装置関連事業	6,173	△17.3
合計	23,782	+2.5

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 金額は、販売価格で表示しております。
3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(百万円)	前年同期比(%)	受注残高(百万円)	前年同期比(%)
溶接機器関連事業	21,170	+10.2	2,726	△2.8
平面研磨装置関連事業	13,364	△13.5	7,229	+48.3
合計	34,534	△0.4	9,956	+29.6

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
溶接機器関連事業	21,248	+16.6
平面研磨装置関連事業	11,010	△36.1
合計	32,259	△9.0

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループの主要顧客は、自動車業界とエレクトロニクス業界であります。自動車業界については、グローバルコンパクトカーの生産コストの削減、為替変動リスク低減、エコカーの生産拡充等のためアジアを中心とした生産ラインの新設、充実が実施されております。また、自動車需要も新興国経済の発展に伴い、成長が予想されます。

エレクトロニクス業界については、短期的な需要変動はあるにしても、半導体が使用される製品の裾野の拡大やその販売地域の世界的な広がりにより、中長期的な市場拡大が予想されます。そのような市場環境の中で、当社グループの収益拡大を図るために、次のような取り組みを行ってまいります。

(1) グループ管理

当社グループは、主要取引先のグローバル展開に併せて積極的な海外進出による業容の拡大を図っておりますが、経営資源を有効活用し、品質統制、最適地生産、最適地調達を推し進め、グループの連携と管理の強化を通して、グループ全体で最大の収益を確保するための体制を整えてまいります。

(2) 消耗品の受注拡大

溶接機器関連事業の主要製品である溶接ガンと平面研磨装置関連事業の主要製品である平面研磨装置は、それぞれ自動車業界及びエレクトロニクス業界の設備投資動向によりその需要が大きく変動し、業績にも影響を与えます。一方、自動車やエレクトロニクス基板の生産数量については、短中期的に比較的小幅な調整はあるにしても、世界的見地で長期的に見れば安定的な推移をすると想定されます。そのため、自動車やエレクトロニクス基板の生産数量に伴う需要を持つ消耗品の受注拡大を図り、業績の安定化を目指してまいります。

(3) 生産性向上を目指した次世代機の製品化

自動車業界においては、自動車ボディの溶接工程の合理化、効率化のために溶接作業のロボット化を進めております。その流れの中で、当社グループの主要製品である溶接ガンの小型・軽量化が求められております。当社グループでは、長年培ってきた総合溶接機器技術を活かし、自動車メーカー各社が要求する小型・軽量溶接ガンの開発を更に推し進め、競合他社との差別化を図り、シェアの拡大を目指してまいります。

エレクトロニクス業界においては、半導体デバイスの高速動作・低消費電力・高集積化を可能とする回路線幅の微細化などに伴い、シリコンウェーハの高精度化が進展しています。その高精度ニーズに対応した高効率製品の開発を継続し、シェアの拡大を図ってまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの事業等に関するリスクについて、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある主な事項を記載しております。なお、文中においては、将来に関するリスクが含まれておりますが、当該事項については、有価証券報告書提出日(平成24年12月25日)現在において、当社グループが判断したものであります。

(1) 主要顧客の業界動向等による影響について

当社グループは、第1「企業の概況」3「事業の内容」に記載したとおり、子会社22社及び関連会社1社で構成されており、溶接機器関連事業及び平面研磨装置関連事業の製造販売を行っております。溶接機器関連事業については、主に自動車関連企業へ、平面研磨装置関連事業については、シリコンウェーハ、ハードディスク基板などといったいわゆるエレクトロニクス関連企業へ納入しております。その

ため、自動車関連企業とエレクトロニクス関連企業の設備投資動向や生産計画、生産実績の影響を受ける傾向にあります。

(2) 技術革新について

溶接機器関連事業における主力の抵抗溶接機器については、薄板鋼板の溶接に適しているため、この薄板鋼板を主体としている自動車ボディーの溶接で最も利用されておりますが、自動車車体の技術革新等により、自動車ボディーに薄板鋼板を利用しなくなるか利用が少なくなる場合には、溶接機器関連事業の業績及び財務状況を悪化させる懸念があります。

また、平面研磨装置については、エレクトロニクス関連業界で使用されることから、常に高精度、微細化といった最先端の加工技術を求められます。当社グループでは、顧客の高度な技術要求に対応できる体制で臨んでおりますが、研磨方法の技術革新等により、当社グループの製品が顧客の要求する製品提供を常に行うとの保証はありません。その結果、平面研磨装置関連事業の業績及び財務状況を悪化させる懸念があります。

(3) 溶接機器関連事業と平面研磨装置関連事業の経営成績の変動について

溶接機器関連事業の主要顧客である自動車業界については、比較的安定的な成長が見込めますが、平面研磨装置関連事業の主要顧客であるエレクトロニクス業界については、いわゆるシリコンサイクルによる周期的な需要変動により業績が大幅に変動します。当社グループについては、溶接機器関連事業と平面研磨装置関連事業の規模や業績が拮抗しているため、平面研磨装置関連事業の業績の変動により、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(4) 為替レートの変動について

当社グループは、為替レートの変動による影響を軽減するため、状況に応じて為替予約及び通貨オプション取引を行っておりますが、当社グループの想定を超える範囲での為替変動があった場合等には、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。また、海外子会社等における収益、費用及び資産等の項目については、連結財務諸表作成のために円換算しております。そのため、換算時の為替レートにより、これらの項目の円換算後の価値が影響を受ける可能性があるため、為替レートの変動は、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

(5) 市況の変動について

当社グループの溶接機器関連事業の主要材料である銅合金については、銅の国際商品市況に大きく影響されます。そのため、銅価格の変動による影響を軽減するため、状況に応じて銅の先物予約、商品スワップ取引や銅価格変動の販売価格への転嫁等を行っておりますが、銅価格の上昇分のコストアップを吸収しきれない場合は、当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。また、銅以外の原材料、石油化学製品等を使用した部品等についても、価格が上昇した場合は、同様に当社グループの経営成績に影響を与える可能性があります。

(6) 海外進出に潜在するリスクについて

当社グループの生産及び販売活動については、中国、韓国といった東南アジアや北米、欧州等、日本国外に占める割合が年々高まる傾向にあります。そのため、当社グループが進出している国や地域において、予測不可能な自然災害、テロ、戦争、その他の要因による社会的混乱、労働災害、ストライキ、疫病等の予期せぬ事象により事業の遂行に問題が生じる可能性があり、そのような場合等には、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

(7) 品質について

溶接機器関連事業における主力の抵抗溶接機器については、グローバル展開により当社グループの製品が世界各国で利用されております。そのため、当社グループは、世界統一品質を掲げ、常にグループ製品の品質向上を目指して改善を行っております。しかしながら、品質上の問題が発生した場合には、その問題が世界に波及する懸念があります。その結果、改修費用等の負担が必要となる場合には、当社グループの業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループの研究開発部門では「ベストワンではなくオンリーワンを目指そう」を合言葉に、「高品質で高生産性なる製品とそのシステム的な活用方法の提供」を目標とし、以下のような考え方を掲げ研究開発活動を行っております。

- ① 作業環境にやさしい製品の開発。
- ② 製品の小型化と高付加価値化。
- ③ 各種製品の海外規格への適合。
- ④ 海外拠点での製造販売を意識した製品開発。

当連結会計年度における研究開発費用は6億84百万円であり、セグメントの研究開発活動の主な成果は次のとおりであります。

(1) 溶接機器関連事業

当連結会計年度における研究開発費の総額は3億84百万円であり、電気・電子と機械のバランスを考えた開発陣容にてメカトロ方式を応用した各種溶接機器関連製品を開発しております。

なお、研究開発により実現化した主な製品及び関連製品は次のとおりであります。

製品名	特徴
C K G 30 (溶接ガン)	重量30kg以下でありながら、高電流且つ高い耐久性を実現した溶接ガン。狭い場所や袋構造の加工品の溶接に最適な製品。

(2) 平面研磨装置関連事業

当連結会計年度における研究開発費の総額は3億円であります。ダウンストリームプラズマによる気相化学エッチング反応を用いた平坦化加工装置について、高精度化の研究開発を鋭意継続しております。また、従来の超精密両面研磨加工の生産効率を飛躍的に向上させるための装置開発についても注力しております。更に、次世代の洗浄度を実現する洗浄装置の実用化に向け、開発を推進しております。

なお、研究開発により実現化した主な製品及び関連製品は次のとおりであります。

製品名	特徴
D C P 200X/300X	数値制御ドライエッチングによる、情緒性を排した次世代対応の加工精度、品質及び環境にも配慮した廃液の出ない超平坦化装置。
新型両面研磨装置	従来より2倍以上の加工能力を持ち、生産性向上を目指した装置。
新型洗浄装置	柔軟性の高い洗浄方法を採用しつつ、高洗浄度を実現する洗浄装置。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 財政状態の分析

(流動資産)

当連結会計年度末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ31億52百万円、13.6%増加して、262億85百万円となりました。

現金及び預金は85億58百万円（前期比18.9%増）、受取手形及び売掛金は97億73百万円（前期比11.6%増）、たな卸資産は68億20百万円（前期比7.1%増）となりました。

(固定資産)

当連結会計年度末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ32百万円、0.4%減少して、88億17百万円となりました。

有形固定資産は72億円（前期比0.3%減）、投資その他の資産は13億82百万円（前期比0.7%減）となりました。

以上により、当連結会計年度末における資産合計は、前連結会計年度末に比べ31億19百万円、9.8%増加して、351億3百万円となりました。

(負債)

当連結会計年度末における負債合計は、前連結会計年度末に比べ1億82百万円、1.7%増加して、109億55百万円となりました。

支払手形及び買掛金が29億73百万円（前期比17.7%減）となった一方で、前受金が22億35百万円（前期比32.5%増）、賞与引当金が6億24百万円（前期比8.8%増）となりました。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産合計は、当期純利益27億18百万円の計上により利益剰余金が増加、円安により為替換算調整勘定も4億84百万円増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて29億37百万円、13.9%増加して241億47百万円となりました。

(2) 経営成績の分析

(売上高)

当連結会計年度における売上高は、前連結会計年度に比べ32億円、9.0%減少して、322億59百万円となりました。販売活動の概況につきましては、第2「事業の状況」 1「業績等の概要」をご参照ください。

(営業損益)

当連結会計年度における営業利益は44億69百万円となり前連結会計年度と比べ1億30百万円増益となりました。アジア地域の需要が堅調に推移したことに加え、販売費及び一般管理費の抑制に努めたことなどによるものであります。

(経常損益)

当連結会計年度における経常利益は、前連結会計年度に比べて3億47百万円増益となり、46億4百万円となりました。

前連結会計年度に比べ、受取利息が40百万円増加し、1億14百万円となったことに加え、円安により為替差損が1億81百万円減少し、6百万円となったことなどによります。

(当期純損益)

特別損失に係る会社整理損失引当金繰入額1億6百万円、減損損失94百万円計上し、税効果会計適用後の法人税等負担額が14億円（前期比50.6%増）となったことで、当連結会計年度の当期純利益は、前連結会計年度に比べて6億64百万円減益となり、27億18百万円となりました。

なお、キャッシュ・フローの状況の分析につきましては、第2「事業の状況」 1「業績等の概要」

(2) キャッシュ・フローの状況をご参照下さい。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループでは、生産能力増強、生産性向上及び合理化を目的として、当連結会計年度において6億12百万円の設備投資を実施いたしました。セグメント別の設備投資は次のとおりであります。

(1) 溶接機器関連事業

当連結会計年度の主な設備投資は、OBARA KOREA CORP.における生産能力増強のための機械設備等に対して総額2億51百万円を実施いたしました。

(2) 平面研磨装置関連事業

当連結会計年度の主な設備投資は、スピードファム(株)における研究開発向け設備及びSPEEDFAM INC.における生産能力増強のための工場増床等に対して総額3億43百万円を実施いたしました。

2 【主要な設備の状況】

当連結会計年度末(平成24年9月30日)における状況は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
本社 (神奈川県大和市)	全社(共通)	事務所	6	0	- (-)	17	24	22
OBARA(株) 本社 (山梨県笛吹市)	貸与資産	事務所及び 工場	312	-	459 (21)	-	771	-
OBARA(株) 豊田営業所 (愛知県豊田市)	貸与資産	事務所	74	-	145 (1)	-	219	-
遊休資産 (神奈川県綾瀬市)	全社(共通)	遊休設備	2	0	715 (9)	1	719	-

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品であります。

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
OBARA(株)	本社 (山梨県笛吹市)	溶接機器 関連事業	溶接機器 製造設備	6	165	- (-)	29	201	137
スピードファ ム(株)	本社 (神奈川県綾瀬市)	平面研磨装置 関連事業	管理部門施設 研磨装置設備 研究開発	157	181	625 (5)	73	1,037	117
スピードファ ム長野(株)	本社 (長野県佐久市)	平面研磨装置 関連事業	機械加工設備	462	97	622 (23)	4	1,187	69

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品であり、建設仮勘定を含んでおります。

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (名)
				建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積千㎡)	その他	合計	
OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD.	南京市 中国	溶接機器 関連事業	溶接機器 製造設備	84	102	- (-)	21	208	337
OBARA (SHANGHAI) CO., LTD.	上海市 中国	溶接機器 関連事業	溶接機器 製造設備	164	96	- (-)	10	271	182
OBARA KOREA CORP.	本社(華城市 韓 国)他1ヶ所	溶接機器 関連事業	溶接機器 製造設備	559	196	218 (16)	8	983	203
SPEEDFAM INC.	新竹県湖口郷 台湾	平面研磨装置 関連事業	平面研磨装置 製造設備	167	23	152 (5)	160	504	89

(注) 帳簿価額のうち「その他」は、工具器具備品であり、建設仮勘定を含んでおります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

特に記載すべき事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

特に記載すべき事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	38,000,000
計	38,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年12月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	20,869,380	20,869,380	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株であります。
計	20,869,380	20,869,380	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成19年4月1日 (注)	6,956,460	20,869,380	—	1,925	—	2,370

(注) 平成19年2月9日開催の取締役会決議に基づき、平成19年4月1日付けで、普通株式1株を普通株式1.5株に無償分割したことにより、発行済株式総数は6,956,460株増加いたしました。

(6) 【所有者別状況】

平成24年9月30日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	28	29	37	95	4	4,569	4,762	—
所有株式数(単元)	—	40,077	1,560	34,450	17,088	324	114,311	207,810	88,380
所有株式数の割合(%)	—	19.29	0.75	16.58	8.22	0.15	55.01	100.00	—

(注) 自己株式1,438,441株は、「個人その他」に14,384単元及び「単元未満株式の状況」に41株を含めて表記しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
有限会社馬込興産	東京都大田区中馬込1丁目10番21号	3,253	15.59
小原 博	東京都大田区	2,263	10.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	1,067	5.11
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	757	3.63
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) SUB A/C AMERICAN CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京支店)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	727	3.48
小原 康嗣	東京都大田区	611	2.93
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	369	1.77
小原 範子	東京都大田区	304	1.45
OBARA従業員持株会	神奈川県大和市中央林間3丁目2番10号	235	1.12
吉田 史子	東京都大田区	218	1.04
計	—	9,809	47.00

(注) 上記のほか、自己株式1,438,441株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合6.89%)を保有しております。

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,467,500	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,313,500	193,135	—
単元未満株式	普通株式 88,380	—	—
発行済株式総数	20,869,380	—	—
総株主の議決権	—	193,135	—

(注) 「単元未満株式」には、自己株式41株を含めて表記しております。

② 【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) OBARA GROUP(株)	神奈川県大和市中央林間 3丁目2番10号	1,438,400	—	1,438,400	6.89
(相互保有株式) 倉光合金工業(株)	東京都大田区西糀谷 3丁目23番15号	29,100	—	29,100	0.13
計	—	1,467,500	—	1,467,500	7.03

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	187	0
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 当期間における取得自己株式数には、平成24年12月1日から有価証券報告書提出日までに取得した単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)	株式数(株)	処分価額の総額(百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(単元未満株式の買増請求)	95	0	—	—
保有自己株式数	1,438,441	—	1,438,441	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年12月1日から有価証券報告書提出日までに取得した単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社の利益配分に関する基本方針は、株主の皆様に対する利益還元を経営上の重要政策として認識し、業績の状況、グループを取り巻く環境並びに中長期的な財務体質の強化策を勘案して、継続的かつ安定的に実施していく方針です。

内部留保に関する考え方につきましては、戦略的かつ機動的な設備投資・研究開発投資が、持続的な事業発展のためには重要と捉えており、適正水準の内部留保の維持が必要と考えております。

当期の利益配分につきましては、平成24年8月27日に公表の通り、通期の業績が順調に推移したことから、1株当たり期末配当金を当初予想より10円増配の20円とし、年間配当金を30円（うち第2四半期末配当（中間配当）10円）としました。

なお、当社は、会社法第454条第5項に規程する第2四半期末配当（中間配当）を行うことができる旨を定款に定めており、剰余金の配当は第2四半期末配当（中間配当）及び期末配当の年2回を基本としておりますが、配当の決定機関は、第2四半期末配当（中間配当）は取締役会、期末配当は株主総会であります。

（注） 基準日が当事業年度に属する剰余金の配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
平成24年5月7日 取締役会決議	194	10
平成24年12月21日 定時株主総会決議	388	20

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成20年9月	平成21年9月	平成22年9月	平成23年9月	平成24年9月
最高(円)	2,400	953	1,236	1,220	1,144
最低(円)	800	446	655	660	816

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年 4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	1,140	1,066	1,003	995	978	988
最低(円)	951	858	865	850	854	910

（注） 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)	—	オハラ ヤスシ 小原 康嗣	昭和43年5月1日生	平成6年1月 当社入社 平成12年7月 当社退社 平成12年8月 スピードファム㈱取締役就任 平成13年8月 スピードファム㈱専務取締役就任 平成13年8月 佐久精機㈱ (現スピードファム長野 ㈱) 取締役就任(現任) 平成16年10月 スピードファム㈱代表取締役副社長 就任(現任) 平成16年12月 当社取締役就任 平成23年7月 当社代表取締役就任 平成23年10月 当社代表取締役社長就任(現任)	(注)2	611
取締役	—	ワタナベ トシアキ 渡辺 俊明	昭和20年9月28日生	昭和44年4月 当社入社 平成4年10月 当社総務部長 平成9年12月 当社取締役就任(現任) 平成14年12月 OBARA KOREA CORP. 理事就任 平成16年9月 当社常務取締役就任 平成19年12月 当社代表取締役副社長就任 平成20年1月 OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD. 董事就任(現任) 平成20年5月 OBARA (SHANGHAI) CO., LTD. 董事就任 (現任) 平成23年10月 OBARA㈱取締役就任(現任) 平成23年10月 OBARA㈱代表取締役副社長就任	(注)2	85
取締役	—	コバヤシ ノリフミ 小林 憲史	昭和37年9月11日生	昭和59年12月 スピードファム㈱入社 平成9年5月 スピードファム㈱管理部長 平成12年6月 スピードファムクリーンシステム㈱ 取締役就任(現任) 平成12年6月 佐久精機㈱ (現スピードファム長野 ㈱) 取締役就任 平成12年8月 スピードファム㈱取締役就任(現任) 平成22年6月 スピードファム長野㈱監査役就任 平成23年8月 当社取締役就任(現任) 平成23年12月 OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD. 監事就任(現任) 平成23年12月 OBARA (SHANGHAI) CO., LTD. 監事就任 (現任) 平成23年12月 OBARA KOREA CORP. 理事就任(現任) 平成24年10月 スピードファム長野㈱代表取締役社 長就任(現任)	(注)2	1
取締役	—	シュウザワ ケン 周 澤 健	昭和39年11月20日生	平成6年4月 当社入社 平成8年7月 OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD. 総経理就任 平成13年9月 OBARA (SHANGHAI) CO., LTD. 総経理就 任 平成16年12月 当社取締役就任 平成23年10月 当社取締役退任 平成23年10月 OBARA㈱取締役就任(現任) 平成23年12月 当社取締役就任(現任) 平成23年12月 OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD. 董事長就任(現任) 平成23年12月 OBARA (SHANGHAI) CO., LTD. 董事長就 任(現任) 平成23年12月 OBARA KOREA CORP. 代表理事就任(現 任)	(注)2	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	—	クニウチ ヒロシ 谷内 博	昭和24年12月30日生	昭和47年4月 当社入社 平成7年10月 当社経理部長 平成8年10月 当社営業部長 平成12年10月 当社関係会社管理室長 平成12年12月 当社監査役就任(現任) 平成13年3月 OBARA KOREA CORP. 監査役就任(現任) 平成17年5月 スピードファム㈱監査役就任(現任) 平成23年10月 OBARA㈱監査役就任(現任)	(注)3	11
監査役	—	オオニシ トモオ 大西 倫雄	昭和47年1月25日生	平成11年4月 公認会計士登録 平成16年2月 税理士登録 平成18年9月 税理士法人みかさ代表社員就任(現任) 平成18年12月 当社監査役就任(現任)	(注)3	0
監査役	—	ムラマツ タテオ 村松 建夫	昭和21年1月7日生	昭和43年4月 ㈱ブリヂストン入社 平成13年2月 ブリヂストンフローテック㈱監査役就任 平成19年4月 合同会社明日への飛躍代表社員就任(現任) 平成19年12月 当社監査役就任(現任)	(注)3	0
計						710

- (注) 1 監査役 大西倫雄及び村松建夫の両氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
- 2 取締役の任期は、平成23年9月期に係る定時株主総会終結の時から平成25年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 3 監査役の任期は、平成23年9月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年9月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社は、長期的な業績の維持向上を図ることにより企業価値を増大し、株主の皆様やお客様をはじめ、従業員、取引先、地域社会等の各ステークホルダーからの信頼を高めるために、経営の効率性、透明性の観点からコーポレート・ガバナンスの充実を図っております。

① 企業統治の体制

1 会社の機関の基本説明

当社は、当社及び子会社の経営に関する重要事項を、当社取締役会（取締役4名。原則毎月1回開催）において審議・決定しております。

当社は監査役会制度を採用しており、監査役3名のうち2名を社外監査役とし、監査・牽制機能の強化を図っております。そして、定期若しくは臨時に監査役監査を厳正に実施しております。また、会計監査については、新日本有限責任監査法人に委託しております。

2 会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

当社は、会社法第362条第5項の規定に基づき、同条第4項第6号並びに会社法施行規則第100条第1項各号及び第3項各号に定める体制の整備の基本方針を次のとおり決議しております。内部統制システムに関する基本的な考え方はこの基本方針のとおりであり、これに沿ってその整備を図っております。

(1) 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制

取締役及び使用人は、法令、定款、株主総会決議、取締役会決議及び業務分掌規程他の社内規程に従い、当社の業務を執行しております。そのため法令違反、不正行為の未然防止のために企業理念に基づいた企業行動基準を定め、社会規範を遵守した行動をとるための指針とし、当企業グループ役員への周知徹底を図っております。

(2) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する事項

情報（文書含む）管理規程の整備を図り、これに基づき取締役の職務執行に係る情報を記録し、保存しております。取締役及び監査役は、常時、これらの情報等を閲覧できる体制を整備しております。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

コンプライアンス、環境、災害、品質、情報セキュリティ及び輸出管理等に係るリスクについては、それぞれの担当部署・グループ子会社にて、規則・ガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成・配布等を行っております。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は取締役、社員が共有する全社的な目標を定め、取締役が定期的に進捗状況をレビューし、改善を促すことを内容とする全社的な業務の効率化を実現するシステムを構築しております。

(5) 当社並びに子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は企業グループ全体で事業計画を達成していくことが重要な課題であり、海外法人を含むグループ各社の取締役及び使用人に対しては、本方針の理念に従い各社の統制環境の整備、啓蒙その他必要な指導を行っております。各子会社の事業運営については、各社が業務執行の経営責任と権限を有するものの、統制に係る重要な意思決定には当社の関与を求めるほか、当社監査役が子会社監査役と連携して監査業務を実施し、子会社の業務の適正を確保しております。

当社の内部監査室は、当社及びグループ各社の内部監査を実施し、その結果を社長に報告し、必要な事項については取締役会が内部統制の改善策の指導、実施の支援・助言を行っております。

(6) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項並びにその使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役が業務補助のためスタッフが必要なときは、その目的に適した職員を配置するものとし、人数、資格については常勤監査役と協議の上決定することになります。監査役はその職員に必要な事項を命令することができ、監査役より命令を受けた職員はその命令に関して、取締役、各部長の指揮命令を受けないこととなります。

(7) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制

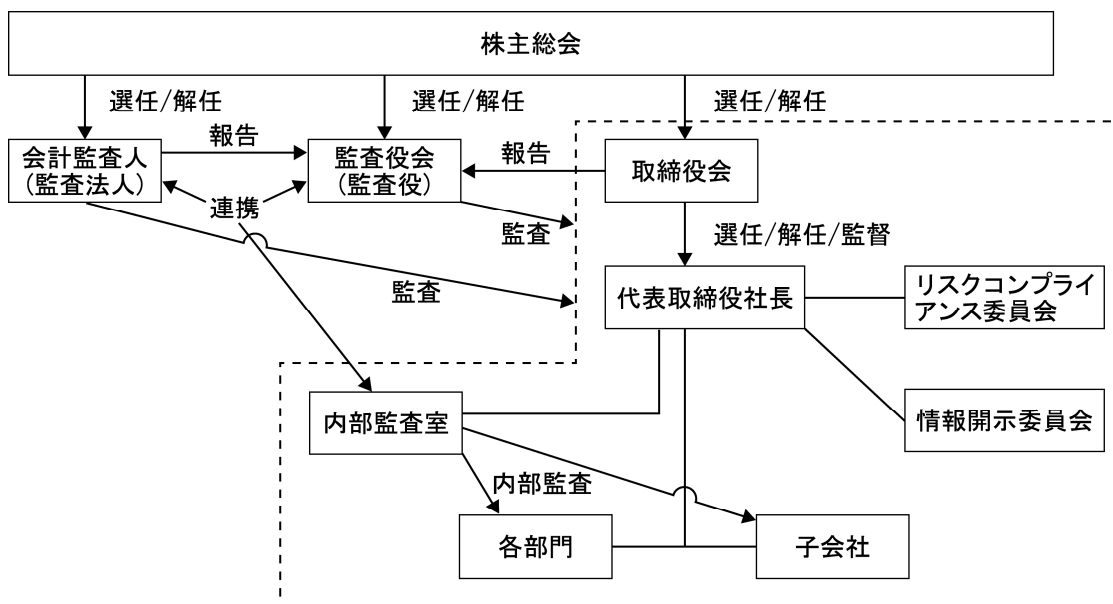
取締役又は使用人は、監査役に対して、法定の事項に加え、当社及び当社グループに重大な影響を及ぼす事項、内部監査の実施状況、法令上疑義のある行為、その他監査役が求める事項についてすみやかに報告する体制を整備しております。報告の方法（報告者、報告受領者、報告時期等）については、取締役と監査役との協議により決定することとしております。

また、監査役は経営上の重要情報を入手できると判断した会議体には随時出席できる体制を整備しております。

(8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役は代表取締役との間の定期的な意見交換会を設けております。また、監査役は、必要に応じて会計監査人、弁護士その他の専門家と相談し、監査業務に関する助言を受ける機会を保証されております。

なお、内部統制システムの概要を含むコーポレート・ガバナンス体制は次のとおりであります。



② 内部監査及び監査役監査

当社の内部監査は内部監査室が担当しており、人員は1名ですが必要に応じて社長又は内部監査室長が任命した者を監査担当者として支援従事する体制をとっております。内部監査の実施については、内部監査年間計画書に基づいて、法令、社内規程等への準拠性のみならず、手順の妥当性・効率性を考慮した業務監査を子会社を含めておこなっております。また必要に応じて社長からの特命事項について内部監査を実施しております。その結果及び改善状況については、社長、監査役等が適時に把握できる体制になっております。

監査役会は監査役3名で構成され、1名が常勤監査役、2名が社外監査役であります。各監査役は、監査役会で決定された監査方針、監査計画に基づき、取締役会をはじめとする重要な会議へ出席し、取締役の職務遂行を監査するとともに、必要に応じ意見を述べるなど、監査体制を整えております。また重要な決議書類等の閲覧を行い、その内容の確認をしております。海外を含む子会社については、往査するとともに必要に応じ取締役から執行状況等を聴取しております。

常勤監査役は、昭和49年から平成8年までの期間当社の経理業務を担当しており、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。

なお、監査役と内部監査室については、コミュニケーション・連携を蜜にすると共に、適宜情報交換を行い、有効かつ効率的な監査を図っております。会計監査人とは、会計監査の計画や結果などについて説明・報告を受けるほか、相互に意見交換を行っております。

③ 社外取締役及び社外監査役

当社の社外監査役は2名であります。いずれの社外監査役とも当社との間には、人間関係、資金的関係、取引関係及びその他の利害関係はありません。

大西倫雄氏は会計・税務の専門家（公認会計士）として企業会計全般の豊富なキャリアと高い見識を有しており、村松建夫氏は製造業における豊富なキャリアと高い見識を有しております。

社外監査役は内部監査室からの内部監査や内部統制の整備・運用状況に関する報告を定期的に受けるほか、効率的・効果的に監査役監査を行うため内部監査室及び会計監査人との情報交換を含む綿密な協力関係を維持しております。

当社は、社外監査役との間で会社法第427条第1項に定める責任限定契約（会社法第423条第1項の責任につき善意でかつ重大な過失が無い時は、1,000万円以上で予め定める）を締結しております。

当社は、社外取締役を選任しておりませんが、現時点における当社の規模や業態等を勘案し、効率的な経営と適切な経営監視機能が働く体制を確保するには、当社の業務内容に精通している4名の社内取締役による取締役会と社外監査役2名を含む3名の監査役による監査役会との構成が相応しい体制であると考えております。また、豊富な知識と経験を有する社外監査役は、当社を客観的かつ中立的な見地から経営監視する役割を十分に果たすことができるものと考えております。

また、当社は社外監査役を選任するための独立性に関する基準または方針を特に定めておりませんが、その選任に当たっては、東京証券取引所の定める独立性に関する判断基準等を参考にしております。

④ 役員の報酬等

イ. 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労 引当金繰入額	
取締役	57	57	—	—	—	4
監査役 (社外監査役を除く)	20	20	—	—	—	1
社外役員	12	12	—	—	—	2

ロ. 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

ハ. 役員報酬等の額の決定方針

株主総会で決定する限度内で経営内容及び経済情勢等を勘案し、取締役の報酬は取締役会の決議により決定し、監査役の報酬は監査役会の協議で決定しております。

なお、取締役の報酬限度額（賞与及びストックオプションを除く）は、平成23年8月26日開催の臨時株主総会において年額280百万円以内、監査役の報酬限度額（賞与及びストックオプションを除く）は、平成19年12月21日開催の第49回定時株主総会において年額60百万円以内と各々決議いただいております。

⑤ 株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 23銘柄
 貸借対照表額の合計額 400百万円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
日産自動車(株)	68,855	47	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
前田道路(株)	50,000	42	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
三菱UFJリース(株)	13,000	40	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
ダイハツ工業(株)	27,954	39	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	105,000	37	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
旭化成工業(株)	67,087	31	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)アルバック	30,000	31	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
日産車体(株)	47,516	30	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
トヨタ自動車(株)	7,000	18	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	50,000	12	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
スズキ(株)	5,000	8	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
富士重工業(株)	18,060	8	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
愛知機械工業(株)	30,812	7	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
野村ホールディングス(株)	21,000	6	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)みずほフィナンシャルグループ	30,000	3	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)東芝	10,500	3	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
三菱自動車工業(株)	30,643	3	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	9,000	2	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
第一生命保険(株)	25	2	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
タカタ(株)	400	0	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
本田技研工業(株)	200	0	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。

当事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
日産自動車(株)	83,289	55	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
前田道路(株)	50,000	50	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
三菱UFJリース(株)	13,000	42	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
日産車体(株)	48,479	42	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	105,000	38	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
ダイハツ工業(株)	28,571	37	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
旭化成工業(株)	67,087	27	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
トヨタ自動車(株)	7,000	21	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)アルバック	30,000	17	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
富士重工業(株)	18,985	12	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	50,000	11	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
スズキ(株)	5,000	7	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
野村ホールディングス(株)	21,000	5	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)みずほフィナンシャルグループ	30,000	3	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
三菱自動車工業(株)	37,657	2	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
(株)東芝	10,500	2	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
東海東京フィナンシャル・ホールディングス(株)	9,000	2	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
第一生命保険(株)	25	2	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
タカタ(株)	400	0	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。
本田技研工業(株)	200	0	取引関係の維持、強化を目的として保有しております。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

	前事業年度 (百万円)	当事業年度 (百万円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式以外の株式	9	10	0	—	△0

⑥ 会計監査の状況

当社は、当事業年度において、会社法に基づく会計監査人及び金融商品取引法に基づく会計監査人に新日本有限責任監査法人を起用しておりますが、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員と当社の間には、特別の利害関係はなく、また、同監査法人は、法令等に従い、同一の業務執行社員が当社の会計監査に7年間を超えて関与することのないよう措置を講じております。当社は同監査法人との間で、会社法監査と金融商品取引法監査について、監査契約書を締結し、それに基づき報酬を支払っております。当事業年度において業務を執行した公認会計士の氏名、監査業務に係る補助者の構成については下記のとおりであります。

- ・業務を執行した公認会計士の氏名

指有限責任社員 業務執行社員 鈴木 裕司、大野 祐平

- ・監査業務に係る補助者の構成

公認会計士10名 その他監査従事者5名

⑦ 取締役会で決議できる株主総会決議事項

1. 自己の株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。

2. 中間配当

当社は、取締役会の決議により、会社法第454条第5項の規定による中間配当をすることができる旨、定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

⑧ 取締役の定数

当社の取締役は7名以内とする旨定款に定めております。

⑨ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとする旨定款に定めております。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	32	—	53	—
連結子会社	21	—	—	—
計	53	—	53	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

当社の連結子会社であるOBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD.、OBARA (SHANGHAI) CO., LTD. は、当社の新日本有限責任監査法人と同一のネットワークに属しているErnst & Youngに対してレビュー等の報酬を支払っております。

当連結会計年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

当社の連結子会社であるOBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD.、OBARA (SHANGHAI) CO., LTD.、SPEEDFAM MECHTRONICS (SHANGHAI) LTD.、SPEEDFAM INC.、SPEEDFAM KOREA LTD. は、当社の新日本有限責任監査法人と同一のネットワークに属しているErnst & Youngに対してレビュー等の報酬を支払っております。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社では、監査計画、監査内容及び監査に要する時間等を考慮し監査報酬額を決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)及び事業年度(平成23年10月1日から平成24年9月30日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、最新の情報を取得する他、監査法人等が主催する研修会へ参加しております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	※2 7,198	※2 8,558
受取手形及び売掛金	※2 8,755	※2, ※5 9,773
有価証券	32	157
商品及び製品	3,370	3,506
仕掛品	※2 1,248	※2 1,238
原材料及び貯蔵品	※2 1,745	※2 2,074
繰延税金資産	381	431
その他	※2 752	844
貸倒引当金	△352	△300
流動資産合計	23,132	26,285
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,750	6,812
減価償却累計額	△4,032	△4,210
建物及び構築物（純額）	※2 2,718	※2 2,602
機械装置及び運搬具	7,127	7,163
減価償却累計額	△6,055	△6,168
機械装置及び運搬具（純額）	※2 1,071	※2 994
土地	※2 3,217	※2 3,242
リース資産	4	4
減価償却累計額	△2	△3
リース資産（純額）	2	1
建設仮勘定	50	196
その他	1,619	1,664
減価償却累計額	△1,458	△1,500
その他（純額）	※2 161	※2 163
有形固定資産合計	7,221	7,200
無形固定資産		
その他	※2 235	※2 234
無形固定資産合計	235	234
投資その他の資産		
投資有価証券	585	587
長期貸付金	15	10
繰延税金資産	2	28
その他	※1, ※2 838	※1, ※2 816
貸倒引当金	△49	△59
投資その他の資産合計	1,393	1,382
固定資産合計	8,850	8,817
資産合計	31,983	35,103

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,611	※5 2,973
短期借入金	※2 1,627	※2 1,744
1年内返済予定の長期借入金	※2 16	※2 5
リース債務	0	0
未払法人税等	432	561
前受金	1,686	2,235
繰延税金負債	4	4
賞与引当金	574	624
役員賞与引当金	10	4
その他	883	918
流動負債合計	8,847	9,073
固定負債		
長期借入金	※2 75	※2 11
リース債務	1	0
繰延税金負債	1,548	1,564
退職給付引当金	133	136
役員退職慰労引当金	58	60
資産除去債務	84	86
その他	23	22
固定負債合計	1,925	1,882
負債合計	10,773	10,955
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,925	1,925
資本剰余金	2,373	2,373
利益剰余金	20,170	22,306
自己株式	△1,077	△1,077
株主資本合計	23,392	25,527
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49	76
為替換算調整勘定	△3,088	△2,603
その他の包括利益累計額合計	△3,039	△2,527
少数株主持分	857	1,147
純資産合計	21,210	24,147
負債純資産合計	31,983	35,103

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	35,460	32,259
売上原価	※1, ※3 25,362	※1, ※3 22,154
売上総利益	10,097	10,104
販売費及び一般管理費	※2, ※3 5,759	※2, ※3 5,635
営業利益	4,338	4,469
営業外収益		
受取利息	74	114
受取配当金	10	10
受取地代家賃	53	38
その他	95	101
営業外収益合計	233	265
営業外費用		
支払利息	63	58
為替差損	187	6
手形売却損	20	5
その他	43	58
営業外費用合計	315	130
経常利益	4,256	4,604
特別利益		
固定資産売却益	※4 192	—
貸倒引当金戻入額	38	—
移転補償金	109	—
特別利益合計	340	—
特別損失		
固定資産除売却損	※5 25	—
減損損失	※6 21	※6 94
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	69	—
関係会社整理損失引当金繰入額	—	106
特別損失合計	116	201
税金等調整前当期純利益	4,481	4,402
法人税、住民税及び事業税	813	1,458
法人税等調整額	116	△57
法人税等合計	929	1,400
少数株主損益調整前当期純利益	3,551	3,001
少数株主利益	168	283
当期純利益	3,382	2,718

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
少数株主損益調整前当期純利益	3,551	3,001
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△26	26
為替換算調整勘定	△917	543
その他の包括利益合計	△944	※1 570
包括利益	2,606	3,572
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,539	3,230
少数株主に係る包括利益	66	341

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,925	1,925
当期末残高	1,925	1,925
資本剰余金		
当期首残高	2,373	2,373
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	2,373	2,373
利益剰余金		
当期首残高	17,176	20,170
当期変動額		
剰余金の配当	△388	△582
当期純利益	3,382	2,718
当期変動額合計	2,994	2,135
当期末残高	20,170	22,306
自己株式		
当期首残高	△1,077	△1,077
当期変動額		
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	△0	△0
当期末残高	△1,077	△1,077
株主資本合計		
当期首残高	20,398	23,392
当期変動額		
剰余金の配当	△388	△582
当期純利益	3,382	2,718
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	2,994	2,135
当期末残高	23,392	25,527

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	76	49
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△26	26
当期変動額合計	△26	26
当期末残高	49	76
為替換算調整勘定		
当期首残高	△2,272	△3,088
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△816	484
当期変動額合計	△816	484
当期末残高	△3,088	△2,603
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△2,196	△3,039
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△843	511
当期変動額合計	△843	511
当期末残高	△3,039	△2,527
少数株主持分		
当期首残高	829	857
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	27	290
当期変動額合計	27	290
当期末残高	857	1,147
純資産合計		
当期首残高	19,031	21,210
当期変動額		
剰余金の配当	△388	△582
当期純利益	3,382	2,718
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△815	802
当期変動額合計	2,178	2,937
当期末残高	21,210	24,147

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,481	4,402
減価償却費及びその他の償却費	667	587
のれん償却額	123	—
減損損失	21	94
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△42	△63
賞与引当金の増減額 (△は減少)	107	42
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1	△5
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	10	△0
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△24	1
受取利息及び受取配当金	△84	△124
支払利息	63	58
有形固定資産除売却損益 (△は益)	△167	2
移転補償金	△109	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	69	—
関係会社整理損失引当金の増減額 (△は減少)	—	106
売上債権の増減額 (△は増加)	△889	△825
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△921	△243
未収入金の増減額 (△は増加)	108	△178
仕入債務の増減額 (△は減少)	175	△722
前受金の増減額 (△は減少)	384	467
その他	141	211
小計	4,113	3,811
利息及び配当金の受取額	75	123
利息の支払額	△82	△63
法人税等の支払額	△898	△1,431
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,208	2,439
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△3,462	△3,725
定期預金の払戻による収入	3,482	3,829
有形固定資産の取得による支出	△430	△586
有形固定資産の売却による収入	382	10
無形固定資産の取得による支出	△14	△13
投資有価証券の取得による支出	△9	△158
投資有価証券の売却及び償還による収入	119	153
貸付けによる支出	△11	△7
貸付金の回収による収入	7	12
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△23	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	39	△485

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,289	47
長期借入金の返済による支出	△37	△73
自己株式の取得による支出	△0	△0
自己株式の売却による収入	0	0
配当金の支払額	△389	△582
少数株主への配当金の支払額	△39	△51
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,755	△660
現金及び現金同等物に係る換算差額	△355	175
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,137	1,468
現金及び現金同等物の期首残高	4,086	5,224
現金及び現金同等物の期末残高	※1 5,224	※1 6,692

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1 連結の範囲に関する事項

子会社は全て連結されております。

連結子会社の数 22社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4 関係会社の状況」に記載しております。

当連結会計年度において、OBARA(株) (旧社名) は、平成23年10月3日付で新設分割を行い、同日付でOBARA GROUP(株)へ商号を変更し、新設会社の商号をOBARA(株)として連結の範囲に含めております。

2 持分法の適用に関する事項

(イ)持分法適用の関連会社はありません。

(ロ)持分法を適用していない関連会社数 1社

倉光合金工業(株)であります。

持分法を適用していない関連会社は、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD.、OBARA (SHANGHAI) CO., LTD.、OBARA MEXICO, S. DE R. L. DE C. V.、LLC OBARA RUS及びSPEEDFAM MECHTRONICS (SHANGHAI) LTD. の決算日は12月31日であり、OBARA INDIA PVT LTD. 及びSPEEDFAM (INDIA) PVT LTD. の決算日は3月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、連結会計年度末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ)有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

(ロ)たな卸資産

通常の販売目的で保有するたな卸資産

主として総平均法による原価法(収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ)有形固定資産（リース資産を除く）

主として定率法を採用しております。

但し、当社及び国内連結子会社の平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 10年～50年

機械装置及び運搬具 2年～11年

(ロ)無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

但し、ソフトウェア(自社利用)については、社内における利用可能期間(5年以内)に基づく定額法を採用しております。

(ハ)リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年9月30日以前のリース取引につきましては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

(イ)貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ)賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当連結会計年度の必要額を計上しております。

(ハ)役員賞与引当金

役員賞与の支給に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

(ニ)退職給付引当金

確定給付型の制度を採用している一部の連結子会社においては、従業員の退職給付に備えるため、退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(ホ)役員退職慰労引当金

当社及び役員退職慰労金制度のある連結子会社において、役員の退職慰労金の支出に備えるため、会社内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上していましたが、会社内規を改訂し、当社は平成16年1月以降、国内連結子会社は平成18年1月以降、役員退職慰労引当金の新規積立を停止するとともに、従来の慰労金相当額につきましては支給実績に基づき取崩を行っております。

(ヘ)関係会社整理損失引当金

関係会社の整理に伴う損失に備えるため、当該損失見込額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部の「為替換算調整勘定」及び「少数株主持分」に含めております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間で均等償却しておりますが、金額が僅少な場合は、発生時の損益として処理しております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に満期の到来する短期投資であります。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

(イ)消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(ロ)連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(連結納税制度の適用)

当連結会計年度より連結納税制度を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

※1 関連会社に係る注記

関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
関係会社株式	34百万円	34百万円

※2 担保提供資産

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
現金及び預金	72百万円	59百万円
受取手形及び売掛金	23百万円	17百万円
仕掛品	8百万円	10百万円
原材料及び貯蔵品	27百万円	28百万円
流動資産その他	5百万円	一百万円
建物及び構築物	507百万円	517百万円
機械装置及び運搬具	14百万円	12百万円
土地	126百万円	135百万円
有形固定資産その他	8百万円	6百万円
無形固定資産その他	28百万円	26百万円
投資その他の資産その他	8百万円	0百万円
計	830百万円	814百万円

担保提供資産に対応する債務

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
短期借入金	802百万円	908百万円
1年内返済予定の長期借入金	6百万円	5百万円
長期借入金	18百万円	11百万円
計	827百万円	926百万円

3 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
	530百万円	一百万円

4 裏書手形譲渡高

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
	375百万円	509百万円

※5 連結会計年度末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
受取手形	一百万円	89百万円
支払手形	一百万円	100百万円

(連結損益計算書関係)

※1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
売上原価	18百万円	33百万円

※2 販売費及び一般管理費の主要な費目と金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
給与・賞与	1,710百万円	1,617百万円
賞与引当金繰入額	262百万円	265百万円
役員賞与引当金繰入額	10百万円	4百万円
貸倒引当金繰入額	7百万円	15百万円
減価償却費	167百万円	158百万円
研究開発費	647百万円	615百万円

※3 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
一般管理費	647百万円	615百万円
当期製造費用	54百万円	69百万円
計	701百万円	684百万円

※4 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
建物及び構築物	3百万円	—百万円
機械装置及び運搬具	18百万円	—百万円
土地	170百万円	—百万円
その他	0百万円	—百万円
計	192百万円	—百万円

※5 固定資産除売却損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
建物及び構築物	0百万円	—百万円
機械装置及び運搬具	5百万円	—百万円
土地	17百万円	—百万円
その他	1百万円	—百万円
計	25百万円	—百万円

※6 減損損失

前連結会計年度(自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)

当連結会計年度において、以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	金額
神奈川県綾瀬市	レーザー溶接機器製造設備	建物 機械装置 什器備品	7百万円
米国ミシガン州	遊休資産	建物	13百万円

当社グループは、事業用資産については、事業又は事業所単位でグルーピングを行いますが、一部の資産又は資産グループにつきましては他の資産グループから独立したキャッシュ・フローを生み出す単位として個別にグルーピングをしております。また、遊休資産につきましては個別資産ごとにグルーピングを行っております。

当連結会計年度において、事業用資産につきましては、営業活動から生ずるキャッシュ・フローが継続してマイナスとなっており今後も改善が困難と見込まれるため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。また、事業の用に供していない遊休資産につきましても、帳簿価額を回収可能価額まで減額し当該減少額を減損損失として特別損失に計上しました。

なお、事業用資産の回収可能価額は使用価値で測定し、遊休資産につきましては、正味売却価額で測定しております。

当連結会計年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

当連結会計年度において、当社グループは遊休資産について個別にグルーピングを行い、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。下記遊休資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失94百万円として、特別損失に計上しております。なお、回収可能価額は、建物及び構築物については、不動産査定価額により評価し、機械装置については、正味売却価額により算定しております。

場所	用途	種類	金額
神奈川県綾瀬市	遊休不動産	建物及び構築物	72百万円
	遊休資産	機械装置	22百万円

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	22百万円
組替調整額	0百万円
税効果調整前	23百万円
税効果額	3百万円
その他有価証券評価差額金	26百万円

為替換算調整勘定

当期発生額	536百万円
組替調整額	6百万円
税効果調整前	543百万円
税効果額	1百万円
為替換算調整勘定	543百万円
その他の包括利益合計	570百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	20,869,380	—	—	20,869,380

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	1,438,249	150	50	1,438,349

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取による増加 150株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による減少 50株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年12月24日 定時株主総会	普通株式	194	10	平成22年9月30日	平成22年12月27日
平成23年5月9日 取締役会	普通株式	194	10	平成23年3月31日	平成23年6月14日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年12月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	388	20	平成23年9月30日	平成23年12月26日

当連結会計年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	20,869,380	—	—	20,869,380

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
普通株式	1,438,349	187	95	1,438,441

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取による増加 187株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による減少 95株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年12月22日 定時株主総会	普通株式	388	20	平成23年9月30日	平成23年12月26日
平成24年5月7日 取締役会	普通株式	194	10	平成24年3月31日	平成24年6月12日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年12月21日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	388	20	平成24年9月30日	平成24年12月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	7,198百万円	8,558百万円
取得日から3ヶ月以内に満期の 到来する短期投資(有価証券)	32百万円	132百万円
計	7,231百万円	8,691百万円
預入期間が3ヶ月を 超える定期預金	△2,006百万円	△1,998百万円
現金及び現金同等物	5,224百万円	6,692百万円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引 (借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

①リース資産の内容

有形固定資産

連結子会社の電子計算機 (その他) であります。

②リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法 リース資産」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年9月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は以下のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
無形固定資産	7	6	0

(注) 取得価額相当額の算定は、無形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低い
ため、支払利子込み法によっております。

(単位：百万円)

	当連結会計年度 (平成24年9月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
無形固定資産	7	7	—

(注) 取得価額相当額の算定は、無形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低い
ため、支払利子込み法によっております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
1年内	0	—

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、無形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低い
ため、支払利子込み法によっております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
支払リース料	1	0
減価償却費相当額	1	0

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引 (借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
1年内	2	2
1年超	4	2
計	6	4

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金の運用につきましては、安全性の高い金融商品で運用しております。また、資金調達につきましてはグループ内での余資の有効活用又は銀行借入により調達する方針であります。デリバティブにつきましては、相場変動によるリスクを軽減するため実需の範囲でのみ行い、投機目的では行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。またグローバルに事業を展開していることから生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されております。

有価証券は、MMF等の公社債投信など安全性と流動性の高い金融商品であります。また、投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、定期的に市場価格の変動等を把握しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、その一部には、外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されております。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であります。変動金利の借入金は、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、社内規程に従い営業債権について、取引先ごとに期日及び残高管理を定期的にモニタリングするとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

②市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

外貨建債権及び債務に係る為替変動リスクを低減するため、為替予約取引を利用しております。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を検討しております。

連結会計年度において、為替や金利等の変動リスクを回避するためのデリバティブ取引・残高はありません。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき資金担当部門が、適時に資金繰計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。(注2)参照)。

前連結会計年度(平成23年9月30日)

	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	7,198	7,198	—
(2) 受取手形及び売掛金	8,755		
貸倒引当金(※1)	△342		
	8,413	8,413	—
(3) 有価証券	32	32	—
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	569	569	—
資産計	16,214	16,214	—
(1) 支払手形及び買掛金	3,611	3,611	—
(2) 短期借入金	1,627	1,627	—
負債計	5,239	5,239	—

(※1) 受取手形及び売掛金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度(平成24年9月30日)

	連結貸借対照表 計上額(百万円)	時価(百万円)	差額(百万円)
(1) 現金及び預金	8,558	8,558	—
(2) 受取手形及び売掛金	9,773		
貸倒引当金(※1)	△300		
	9,472	9,472	—
(3) 有価証券	157	157	—
(4) 投資有価証券			
その他有価証券	572	572	—
資産計	18,761	18,761	—
(1) 支払手形及び買掛金	2,973	2,973	—
(2) 短期借入金	1,744	1,744	—
負債計	4,717	4,717	—

(※1) 受取手形及び売掛金に対して計上している貸倒引当金を控除しております。

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 有価証券

有価証券は、公社債投信であり、短期間で期日が到来するため時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(4) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関から提示された価格によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区分	平成23年9月30日	平成24年9月30日
投資有価証券 非上場株式	15	15

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(4) 投資有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年9月30日)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	7,198	—	—	—
受取手形及び売掛金	8,755	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(社債・地方債等)	6	3	19	100
合計	15,959	3	19	100

当連結会計年度(平成24年9月30日)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超
現金及び預金	8,558	—	—	—
受取手形及び売掛金	9,773	—	—	—
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期があるもの(社債・地方債等)	0	4	—	100
合計	18,332	4	—	100

(注4) 長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成23年9月30日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	331	157	174
債券	29	29	0
その他	20	15	4
小計	381	202	179
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	108	167	△58
債券	75	100	△24
その他	36	37	△0
小計	221	304	△83
合計	602	506	96

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額15百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の「その他有価証券で時価のあるもの」には含めておりません。

当連結会計年度(平成24年9月30日)

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	319	135	183
その他	24	15	8
小計	344	151	192
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	142	192	△49
債券	81	104	△23
その他	161	161	△0
小計	385	458	△73
合計	729	610	119

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額15百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記の「その他有価証券で時価のあるもの」には含めておりません。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
その他	18	—	3

当連結会計年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	3	2	—

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

一部の連結子会社は、確定給付型の制度として退職一時金制度を設けております。また、当社及び一部の連結子会社は、この他に総合設立型の厚生年金基金制度を採用しております。なお、当社は確定拠出年金法の施行に伴い、平成17年1月に適格退職年金制度について、確定拠出年金制度に移行しております。さらに、一部の連結子会社でも、確定拠出型の退職給付制度を設けております。

なお、要拠出額を退職給付費用として処理している複数事業主制度に関する事項は次のとおりであります。

(1) 制度全体の積立状況に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
年金資産の額(百万円)	105,046	104,458
年金財政計算上の給付債務の額(百万円)	132,729	132,612
差引額(百万円)	△27,683	△28,154

(2) 制度全体に占める当社及び連結子会社の拠出割合

前連結会計年度 1.7 % (自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

当連結会計年度 1.5 % (自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1)差引額の主な要因は、年金財政計算上の過去勤務債務残高(前連結会計年度26,082百万円、当連結会計年度25,506百万円)、資産評価調整加算額(前連結会計年度5,338百万円、当連結会計年度-百万円)及び剰余金(前連結会計年度3,737百万円、当連結会計年度△2,648百万円)であります。

本制度における過去勤務債務の償却方法は期間20年の元利均等償却であります。

なお、上記(2)の割合は当社及び一部の連結子会社の実際の負担割合とは一致いたしません。

2 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
(1) 退職給付債務(百万円)	△285	△290
(2) 年金資産(百万円)	152	153
(3) 退職給付引当金(百万円)(1)+(2)	△133	△136

3 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年10月1日 至平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自平成23年10月1日 至平成24年9月30日)
(1) 勤務費用(百万円)(注)1	188	152
(2) 退職給付費用(百万円)	188	152
(3) その他(百万円)(注)2	96	115
(4) 計(百万円)(2)+(3)	285	268

(注) 1 総合設立の厚生年金基金への拠出額を含めております。

2 その他は確定拠出年金制度への掛金支払額であります。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

確定給付型の制度を採用している一部の連結子会社の退職給付債務の計算は簡便法によっております。

(税効果会計関係)

(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
税務上の繰越欠損金	1,008百万円	1,000百万円
役員退職慰労引当金	32百万円	24百万円
退職給付引当金	27百万円	28百万円
減損損失	264百万円	334百万円
会員権評価損	63百万円	56百万円
賞与引当金	138百万円	115百万円
投資有価証券評価損	32百万円	30百万円
貸倒引当金	58百万円	80百万円
たな卸資産	249百万円	229百万円
その他	262百万円	178百万円
繰延税金資産小計	2,137百万円	2,078百万円
評価性引当額	△1,752百万円	△1,615百万円
繰延税金資産合計	384百万円	462百万円

(繰延税金負債)

評価差額	△177百万円	△159百万円
その他有価証券評価差額金	△46百万円	△43百万円
子会社資産売却	△39百万円	△38百万円
子会社の留保利益金	△1,242百万円	△1,298百万円
その他	△47百万円	△31百万円
繰延税金負債合計	△1,553百万円	△1,571百万円
繰延税金負債の純額	△1,168百万円	△1,108百万円

(2) 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
受取配当金連結消去に伴う影響額	6.3%	21.8%
評価性引当額	△10.5%	2.2%
受取配当金等永久に益金に参入されない項目	△6.1%	△25.7%
連結子会社の税率差異	△18.4%	△19.6%
子会社留保金課税	7.3%	1.3%
外国子会社配当源泉税	0.3%	7.8%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—%	5.4%
その他	1.3%	△2.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	20.8%	31.8%

(3) 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以降開始する連結会計年度より法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。

これに伴い、平成24年10月1日から開始する連結会計年度以降において解消が見込まれる一時差異については、繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率が40.6%から38.0%に変更されます。また、平成27年10月1日から開始する連結会計年度以降において解消が見込まれる一時差異については、繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率が40.6%から35.6%に変更されます。

なお、この税率変更による影響は軽微であります。

（企業結合等関係）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（資産除去債務関係）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

（賃貸等不動産関係）

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の事業構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものとあります。

当社グループは、主として自動車業界向けの溶接機器関連事業及びエレクトロニクス業界向けの平面研磨装置関連事業の2つの事業から構成されており、各事業単位で、日本及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は溶接機器関連事業及び平面研磨装置関連事業の2つを報告セグメントとしております。溶接機器関連事業は、自動車業界向けにガン、電極及び関連機器等の製造・販売を行い、平面研磨装置関連事業はエレクトロニクス業界向けにラッピングマシーン及びエッジポリッシャー等の製造・販売を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益の数値であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は、市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	溶接機器 関連事業	平面研磨装置 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	18,229	17,230	35,460	—	35,460
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	0	4	△4	—
計	18,233	17,230	35,464	△4	35,460
セグメント利益	2,221	2,120	4,341	△2	4,338
セグメント資産	17,353	14,143	31,496	486	31,983
その他の項目					
減価償却費	374	293	667	—	667
のれんの償却額	—	123	123	—	123
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	329	188	517	—	517

(注) 1 (1) セグメント利益の調整額△2百万円は、セグメント間取引消去によるものであります。

(2) セグメント資産のうち調整額の項目に含めた金額は全て全社資産で、その内容は親会社での余資運用資金(現預金)であります。

2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	連結財務諸表 計上額 (注) 2
	溶接機器 関連事業	平面研磨装置 関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	21,248	11,010	32,259	—	32,259
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	0	3	△3	—
計	21,251	11,011	32,263	△3	32,259
セグメント利益	3,816	990	4,807	△338	4,469
セグメント資産	18,198	13,793	31,991	3,112	35,103
その他の項目					
減価償却費	313	253	566	20	587
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	251	343	595	17	612

- (注) 1 (1) セグメント利益の調整額△338百万円には、セグメント間取引消去△3百万円及び報告セグメントに配分していない全社費用△334百万円が含まれております。なお、当連結会計年度より、持株会社体制に移行したことに伴い、当社において新たに報告セグメントに帰属しない全社費用が発生しております。
- (2) セグメント資産のうち調整額の項目に含めた金額は全て全社資産です。
- 2 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア パシフィック	米州	その他	合計
8,728	22,736	2,607	1,387	35,460

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア パシフィック	米州	その他	合計
4,853	2,174	178	14	7,221

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	アジア パシフィック	米州	その他	合計
7,879	19,884	3,378	1,116	32,259

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	アジア パシフィック	米州	その他	合計
4,587	2,428	173	11	7,200

3 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	合計
	溶接機器 関連事業	平面研磨装置 関連事業	計		
減損損失	13	7	21	—	21

当連結会計年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	合計
	溶接機器 関連事業	平面研磨装置 関連事業	計		
減損損失	—	22	22	72	94

(注) 調整額の金額は、全社資産に係るものであります。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	合計
	溶接機器 関連事業	平面研磨装置 関連事業	計		
当期償却額	—	123	123	—	123
当期末残高	—	—	—	—	—

当連結会計年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の重要な子会社の役員及び主要株主等（個人の場合に限る。）等

前連結会計年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千won)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引 の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社（当該会社の子会社を含む）	エーワンテック(株) (注2)	華城市 韓国	50,000	製造業	なし	営業上 の取引	固定資産の売却(注1)	4	—	—
							商品仕入及び外注加工(注1)	594	買掛金	46

(注) 1 固定資産の売却、商品仕入及び外注加工については、一般の取引条件と同様に決定しております。

2 連結子会社役員 孫聖琪及びその近親者が議決権の100.0%を直接所有しております。

当連結会計年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

種類	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千won)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合 (%)	関連当事者 との関係	取引 の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社（当該会社の子会社を含む）	エーワンテック(株) (注2)	華城市 韓国	50,000	製造業	なし	営業上 の取引	材料の販売(注1)	4	売掛金	0
							商品仕入及び外注加工(注1)	488	買掛金	45

(注) 1 材料の販売、商品仕入及び外注加工については、一般の取引条件と同様に決定しております。

2 連結子会社役員 孫聖琪及びその近親者が議決権の100.0%を直接所有しております。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
1株当たり純資産額	1,047円44銭	1,183円67銭
1株当たり当期純利益金額	174円08銭	139円90銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当連結会計年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	3,382	2,718
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	3,382	2,718
普通株式の期中平均株式数(株)	19,431,064	19,430,985

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当連結会計年度 (平成24年9月30日)
純資産の部の合計額(百万円)	21,210	24,147
純資産の部の合計額から控除する金額(百万円)		
(うち少数株主持分)	(857)	(1,147)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	20,352	22,999
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	19,431,031	19,430,939

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,627	1,744	2.7	—
1年以内に返済予定の長期借入金	16	5	11.3	—
1年以内に返済予定のリース債務	0	0	2.1	—
長期借入金 (1年以内に返済予定のものを除く。)	75	11	11.3	平成25年10月31日～ 平成26年10月31日
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	1	0	2.1	平成25年10月4日～ 平成26年6月4日
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	1,722	1,763	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金、リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

区分	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	5	5	—	—	—

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	8,084	15,290	23,983	32,259
税金等調整前 四半期(当期)純利益 (百万円) 金額	1,029	2,031	3,288	4,402
四半期(当期)純利益 (百万円) 金額	614	1,155	1,986	2,718
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	31.62	59.46	102.23	139.90

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	31.62	27.83	42.77	37.67

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	486	1,427
受取手形	※1 285	—
売掛金	※1 1,346	—
商品及び製品	190	—
仕掛品	78	—
原材料及び貯蔵品	636	—
前渡金	38	—
前払費用	7	3
関係会社短期貸付金	1,789	809
未収還付法人税等	49	126
未収入金	50	244
繰延税金資産	118	51
その他	9	5
貸倒引当金	△2	—
流動資産合計	5,084	2,666
固定資産		
有形固定資産		
建物	2,304	2,234
減価償却累計額	△1,807	△1,842
建物（純額）	497	391
構築物	188	191
減価償却累計額	△163	△167
構築物（純額）	25	24
機械及び装置	1,720	8
減価償却累計額	△1,506	△8
機械及び装置（純額）	214	0
車両運搬具	81	13
減価償却累計額	△76	△13
車両運搬具（純額）	4	0
工具、器具及び備品	574	158
減価償却累計額	△525	△134
工具、器具及び備品（純額）	49	24
土地	1,367	1,367
建設仮勘定	35	—
有形固定資産合計	2,193	1,808
無形固定資産		
ソフトウェア	3	0
その他	0	0

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
無形固定資産合計	3	0
投資その他の資産		
投資有価証券	522	516
関係会社株式	2,715	5,043
関係会社出資金	938	938
長期貸付金	—	3
従業員に対する長期貸付金	6	—
関係会社長期貸付金	417	326
破産更生債権等	2	—
長期前払費用	1	1
保険積立金	158	105
会員権	64	64
その他	25	10
貸倒引当金	△49	△51
投資その他の資産合計	4,804	6,960
固定資産合計	7,001	8,769
資産合計	12,086	11,436
負債の部		
流動負債		
支払手形	47	—
買掛金	※1 443	—
短期借入金	※1 1,797	※1 1,781
未払金	159	116
未払費用	11	1
未払法人税等	11	1
前受金	8	—
預り金	12	3
賞与引当金	150	17
流動負債合計	2,641	1,922
固定負債		
繰延税金負債	48	44
役員退職慰労引当金	11	11
資産除去債務	47	48
長期預り保証金	4	4
固定負債合計	112	109
負債合計	2,753	2,031

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,925	1,925
資本剰余金		
資本準備金	2,370	2,370
その他資本剰余金	2	2
資本剰余金合計	2,373	2,373
利益剰余金		
利益準備金	126	126
その他利益剰余金		
別途積立金	4,000	4,000
繰越利益剰余金	1,899	1,958
利益剰余金合計	6,026	6,085
自己株式	△1,077	△1,077
株主資本合計	9,248	9,307
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	84	97
評価・換算差額等合計	84	97
純資産合計	9,332	9,404
負債純資産合計	12,086	11,436

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
営業収益		
売上高	※2 6,776	—
営業収入		
関係会社受取配当金	—	933
運営費用収入	—	※2 237
営業収入合計	—	1,171
営業収益合計	6,776	1,171
営業費用		
売上原価		
製品期首たな卸高	133	—
当期製品製造原価	※6 5,209	—
合計	5,343	—
製品期末たな卸高	190	—
製品売上原価	※1 5,153	—
売上総利益	1,623	—
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	101	1
役員報酬	143	90
給料及び手当	476	133
賞与引当金繰入額	59	17
法定福利費	96	25
旅費及び交通費	65	13
貸倒引当金繰入額	—	△4
減価償却費	23	45
支払報酬	54	53
業務委託費	38	67
その他	※6 441	140
販売費及び一般管理費合計	1,501	584
営業費用合計	6,655	584
営業利益	121	587
営業外収益		
受取利息	※2 43	※2 39
受取配当金	※2 624	8
為替差益	—	0
受取地代家賃	49	29
その他	26	5
営業外収益合計	744	84

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
営業外費用		
支払利息	※2 21	※2 17
為替差損	71	—
貸貸収入原価	16	8
減価償却費	—	9
租税公課	—	9
その他	18	9
営業外費用合計	128	54
経常利益	736	617
特別利益		
固定資産売却益	※3 173	—
移転補償金	109	—
特別利益合計	283	—
特別損失		
固定資産売却損	※4 18	—
固定資産除却損	※5 0	—
減損損失	—	※7 72
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	41	—
特別損失合計	60	72
税引前当期純利益	959	545
法人税、住民税及び事業税	35	△94
法人税等調整額	△116	△1
法人税等合計	△80	△96
当期純利益	1,040	641

【製造原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)		当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
I 材料費		3,567	68.1	—	
II 外注加工費		263	5.0	—	
III 労務費	※1	881	16.8	—	
IV 経費	※2	525	10.1	—	
当期総製造費用		5,238	100.0	—	
仕掛品期首たな卸高		69		—	
合計		5,308		—	
仕掛品期末たな卸高		78		—	
他勘定振替高	※3	20		—	
当期製品製造原価		5,209		—	

(注) ※1 労務費のうち賞与引当金繰入額は次のとおりであります。

前事業年度	当事業年度
金額(百万円)	金額(百万円)
76	—

※2 主な内訳は次のとおりであります。

科目	前事業年度	当事業年度
	金額(百万円)	金額(百万円)
減価償却費	118	—
業務委託費	74	—
消耗品費	57	—
研究開発費	54	—
維持修繕費	83	—
電力費	29	—

※3 他勘定振替高の内容は次のとおりであります。

科目	前事業年度	当事業年度
	金額(百万円)	金額(百万円)
販売費及び一般管理費	17	—
その他	2	—
合計	20	—

4

原価計算の方法	前事業年度	当事業年度
	予定原価に基づく実際総合原価計算を採用し、期末に原価差額を調整しております。	—

③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,925	1,925
当期末残高	1,925	1,925
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	2,370	2,370
当期末残高	2,370	2,370
その他資本剰余金		
当期首残高	2	2
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	2	2
資本剰余金合計		
当期首残高	2,373	2,373
当期変動額		
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	2,373	2,373
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	126	126
当期末残高	126	126
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	4,000	4,000
当期末残高	4,000	4,000
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,248	1,899
当期変動額		
剰余金の配当	△388	△582
当期純利益	1,040	641
当期変動額合計	651	58
当期末残高	1,899	1,958
利益剰余金合計		
当期首残高	5,375	6,026
当期変動額		
剰余金の配当	△388	△582
当期純利益	1,040	641

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
当期変動額合計	651	58
当期末残高	6,026	6,085
自己株式		
当期首残高	△1,077	△1,077
当期変動額		
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	△0	△0
当期末残高	△1,077	△1,077
株主資本合計		
当期首残高	8,597	9,248
当期変動額		
剰余金の配当	△388	△582
当期純利益	1,040	641
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	0	0
当期変動額合計	651	58
当期末残高	9,248	9,307
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	91	84
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△7	13
当期変動額合計	△7	13
当期末残高	84	97
評価・換算差額等合計		
当期首残高	91	84
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△7	13
当期変動額合計	△7	13
当期末残高	84	97

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
純資産合計		
当期首残高	8,688	9,332
当期変動額		
剰余金の配当	△388	△582
当期純利益	1,040	641
自己株式の取得	△0	△0
自己株式の処分	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	△7	13
当期変動額合計	644	72
当期末残高	9,332	9,404

【重要な会計方針】

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。

但し、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 10～50年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

但し、ソフトウェア(自社利用)については、社内における利用可能期間(5年以内)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年9月30日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

3 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については過去の貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当事業年度の必要額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、会社内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しておりますが、平成15年12月に役員退職慰労金内規の改訂を行い、平成16年1月以降の役員退職慰労引当金の新規積立を停止するとともに、従来の慰労金相当額につきましては支給実績に基づき取崩を行っております。

5 その他財務諸表作成のための重要な事項

(1) 消費税等の処理方法

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

【表示方法の変更】

(損益計算書)

前事業年度において、販売費及び一般管理費の「その他」に含めて表示しておりました「業務委託費」は、金額的重要性が増したため、当事業年度より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、販売費及び一般管理費の「その他」に表示しておりました480百万円は、「業務委託費」38百万円、「その他」441百万円として組み替えております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

(連結納税制度の適用)

当事業年度より連結納税制度を適用しております。

(遊休資産)

土地には、遊休資産715百万円が含まれております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

※1 関係会社に対する資産・負債

各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
受取手形	3百万円	一百万円
売掛金	514百万円	一百万円
買掛金	232百万円	一百万円
短期借入金	1,167百万円	1,181百万円

2 保証債務

下記関係会社の取引債務の保証を行っております。

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
スピードファム㈱	74百万円	86百万円
スピードファム長野㈱	29百万円	一百万円
計	104百万円	86百万円

(損益計算書関係)

※1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
売上原価	△1百万円	一百万円

※2 各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
売上高	1,855百万円	一百万円
運営費用収入	一百万円	237百万円
受取利息	43百万円	39百万円
受取配当金	617百万円	一百万円
支払利息	11百万円	12百万円

※3 固定資産売却益の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
建物	3百万円	一百万円
車輛運搬具	0百万円	一百万円
土地	170百万円	一百万円
計	173百万円	一百万円

※4 固定資産売却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
構築物	0百万円	一百万円
車輛運搬具	0百万円	一百万円
土地	17百万円	一百万円
計	18百万円	一百万円

※5 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
機械及び装置	0百万円	一百万円
工具、器具及び備品	0百万円	一百万円
計	0百万円	一百万円

※6 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
一般管理費	57百万円	一百万円
当期製造費用	54百万円	一百万円
計	111百万円	一百万円

※7 減損損失

前事業年度(自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

当事業年度において、当社は遊休資産について個別にグルーピングを行い、以下の資産グループについて減損損失を計上しております。下記遊休資産については、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失72百万円として、特別損失に計上しております。その内訳は、建物69百万円、構築物3百万円であります。なお、回収可能価額は、不動産査定価額により評価しております。

場所	用途	種類	金額
神奈川県綾瀬市	遊休不動産	建物及び構築物	72百万円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	1,438,249	150	50	1,438,349

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取による増加

150株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による減少

50株

当事業年度(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)

自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 株式数(株)	当事業年度 増加株式数(株)	当事業年度 減少株式数(株)	当事業年度末 株式数(株)
普通株式	1,438,349	187	95	1,438,441

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取による増加

187株

減少数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買増請求による減少

95株

(リース取引関係)

1 リース取引開始日が平成20年9月30日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年9月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
ソフトウェア	7	6	0

(注) 取得価額相当額の算定は、無形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低い
ため、支払利子込み法によっております。

(単位：百万円)

	当事業年度 (平成24年9月30日)		
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	期末残高相当額
ソフトウェア	7	7	—

(注) 取得価額相当額の算定は、無形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低い
ため、支払利子込み法によっております。

(2) 未経過リース料期末残高相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
1年内	0	—

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、無形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低い
ため、支払利子込み法によっております。

(3) 支払リース料及び減価償却費相当額

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
支払リース料	1	0
減価償却費相当額	1	0

(4) 減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
1年内	2	0
1年超	4	1
合計	6	1

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式5,009百万円、関連会社株式34百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は子会社株式2,681百万円、関連会社株式34百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(繰延税金資産)

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
税務上の繰越欠損金	865百万円	789百万円
関係会社株式	一百万円	205百万円
役員退職慰労引当金	10百万円	4百万円
会員権評価損	55百万円	49百万円
たな卸資産	68百万円	一百万円
投資有価証券評価損	32百万円	29百万円
賞与引当金	61百万円	6百万円
減損損失	58百万円	72百万円
資産除去債務	19百万円	17百万円
その他	11百万円	4百万円
繰延税金資産小計	1,182百万円	1,179百万円
評価性引当額	△1,064百万円	△1,128百万円
繰延税金資産合計	118百万円	51百万円

(繰延税金負債)

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
資産除去債務に対応する除去費用	△1百万円	△1百万円
その他有価証券評価差額金	△46百万円	△43百万円
繰延税金負債合計	△48百万円	△44百万円
繰延税金資産負債の純額	69百万円	6百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
評価性引当額	△26.9%	11.7%
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	△25.5%	△105.7%
外国子会社配当源泉税	1.5%	7.2%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—%	29.7%
その他	1.9%	△1.2%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	△8.4%	△17.7%

3 法定実効税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」（平成23年法律第114号）及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」（平成23年法律第117号）が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以降開始する事業年度より法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。

これに伴い、平成24年10月1日から開始する事業年度以降において解消が見込まれる一時差異については、繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率が40.6%から38.0%に変更されます。また、平成27年10月1日から開始する事業年度以降において解消が見込まれる一時差異については、繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率が40.6%から35.6%に変更されます。

なお、この税率変更による影響は軽微であります。

（企業結合等関係）

前事業年度（自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日）

該当事項はありません。

当事業年度（自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日）

共通支配下の取引等

当社は、平成23年5月30日及び平成23年7月25日開催の取締役会決議並びに平成23年8月26日開催の臨時株主総会の承認に基づき、平成23年10月3日付で、当社の抵抗溶接機器・各種溶接機器の製造販売に係る事業を会社分割により分社化して持株会社体制に移行いたしました。また同日付で、商号を「OBARA GROUP株式会社」に変更し、引き続き持株会社として上場を維持し、分割により設立する新会社については商号を「OBARA株式会社」とし、本件事業を承継させております。

1 取引の概要

(1) 対象となった事業の名称及びその事業の内容

① 事業の名称

溶接機器関連事業

② 事業の内容

抵抗溶接機器・各種溶接機器の製造販売

(2) 企業結合日

平成23年10月3日

(3) 企業結合の法的形式

当社を分割会社とし、新設する「OBARA株式会社」を承継会社とする、分社型新設分割であります。

(4) 結合後企業の名称

OBARA GROUP株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

当社は、各事業の採算性や責任体制の明確化を図るとともに、機動的な対応が可能なグループ運営体制が必要不可欠であると判断し、持株会社体制へ移行することといたしました。

2 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成20年12月26日）及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第10号 平成20年12月26日）に基づき、共通支配下の取引として処理しております。

3 子会社株式の追加取得に関する事項

新設分割承継会社が承継した資産・負債及び当社が取得した子会社株式の取得原価

資産	3,183百万円
負債	855百万円
子会社株式の取得原価	2,327百万円

(資産除去債務関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
1株当たり純資産額	480円30銭	484円01銭
1株当たり当期純利益金額	53円53銭	33円02銭

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (自 平成22年10月1日 至 平成23年9月30日)	当事業年度 (自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	1,040	641
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	1,040	641
普通株式の期中平均株式数(株)	19,431,064	19,430,985

3 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成23年9月30日)	当事業年度 (平成24年9月30日)
純資産の部の合計額(百万円)	9,332	9,404
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	9,332	9,404
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	19,431,031	19,430,939

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額(百万円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
日産自動車(株)	83,289	55
前田道路(株)	50,000	50
三菱UFJリース(株)	13,000	42
日産車体(株)	48,479	42
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	105,000	38
ダイハツ工業(株)	28,571	37
旭化成工業(株)	67,087	27
トヨタ自動車(株)	7,000	21
(株)アルバック	30,000	17
(株)大利根カントリー倶楽部	1	13
その他(20銘柄)	186,683	65
計	619,112	411

【債券】

銘柄	券面総額(百万円)	貸借対照表計上額(百万円)
(投資有価証券)		
その他有価証券		
Mitsubishi UFJ Securities International plc ユーロ円建社債	100	76

【その他】

種類及び銘柄	投資口数等(口)	貸借対照表計上額(百万円)
(投資有価証券)		
その他有価証券 (証券投資信託の受益証券)		
DWSロシア・ルーブル債券投信	9,645,528	8
アムンディ・ロシア東欧株ファンド	13,000,000	8
野村アフリカ株投信	9,757,742	7
新光ジャパンオープンⅡ	9,000,000	3
計	41,403,270	28

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	2,304	9	79 (69)	2,234	1,842	43	391
構築物	188	9	6 (3)	191	167	7	24
機械及び装置	1,720	—	1,711	8	8	0	0
車両運搬具	81	—	67	13	13	0	0
工具、器具及び備品	574	3	419	158	134	6	24
土地	1,367	0	—	1,367	—	—	1,367
建設仮勘定	35	3	38	—	—	—	—
有形固定資産計	6,272	26	2,323 (72)	3,975	2,167	57	1,808
無形固定資産							
ソフトウェア	104	0	102	2	1	0	0
その他	0	—	—	0	—	—	0
無形固定資産計	104	0	102	2	1	0	0
長期前払費用	2	—	0	1	0	0	1

(注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。

建物	本社移転に伴うレイアウト工事	9百万円
構築物	山梨土地斜面整備	9百万円

2 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。

新設分割で分割会社へ資産を承継したことに伴う影響額		
建物		9百万円
機械及び装置		1,711百万円
車両運搬具		67百万円
工具、器具及び備品		417百万円
ソフトウェア		102百万円

3 ()内は内書で、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金	51	4	—	4	51
賞与引当金	150	17	150	—	17
役員退職慰労引当金	11	—	—	—	11

(注) 貸倒引当金の当期減少額「その他」の内訳

一般債権の貸倒引当金洗替による戻入額	4百万円
--------------------	------

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 資産の部

A 現金及び預金

区分	金額(百万円)
現金	0
預金	
当座預金	4
普通預金	1,421
別段預金	0
小計	1,427
合計	1,427

B 関係会社短期貸付金

相手先	金額(百万円)
スピードファム㈱	181
スピードファム長野㈱	628
合計	809

C 関係会社株式

銘柄	金額(百万円)
OBARA㈱	2,327
スピードファム㈱	1,644
OBARA CORP. USA	586
OBARA KOREA CORP.	141
洋光産業㈱	108
その他	236
合計	5,043

D 関係会社出資金

銘柄	金額(百万円)
OBARA (SHANGHAI) CO., LTD.	534
OBARA (NANJING) MACHINERY & ELECTRIC CO., LTD.	404
合計	938

② 負債の部

A 短期借入金

相手先	金額(百万円)
スピードファムクリーンシステム(株)	807
(株)三菱東京UFJ銀行	360
OBARA(株)	244
洋光産業(株)	130
(株)みずほ銀行	120
その他	120
合計	1,781

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	10月1日から9月30日まで
定時株主総会	12月中
基準日	9月30日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増	
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とする。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL http://www.obara-g.com/
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、定款の定めによりその有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
- (4) 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- | | | | | |
|---|--|--------|---------------------------|---------------------------|
| (1) 有価証券報告書
及びその添付書類並
びに有価証券報告書
の確認書 | 事業年度
(第53期) | 自
至 | 平成22年10月1日
平成23年9月30日 | 平成23年12月26日
関東財務局長に提出。 |
| (2) 内部統制報告書及び
その添付書類 | 事業年度
(第53期) | 自
至 | 平成22年10月1日
平成23年9月30日 | 平成23年12月26日
関東財務局長に提出。 |
| (3) 四半期報告書及び
確認書 | 第54期
第1四半期 | 自
至 | 平成23年10月1日
平成23年12月31日 | 平成24年2月13日
関東財務局長に提出。 |
| | 第54期
第2四半期 | 自
至 | 平成24年1月1日
平成24年3月31日 | 平成24年5月14日
関東財務局長に提出。 |
| | 第54期
第3四半期 | 自
至 | 平成24年4月1日
平成24年6月30日 | 平成24年8月10日
関東財務局長に提出。 |
| (4) 臨時報告書 | 金融商品取引法第24条の5第4項及び企
業内容等の開示に関する内閣府令第19条
第2項第9号の2(株主総会における議
決権行使の結果)の規定に基づく臨時報
告書 | | | 平成23年12月27日
関東財務局長に提出。 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年12月21日

OBARA GROUP株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 裕 司 ⑨

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大野 祐 平 ⑨

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているOBARA GROUP株式会社の平成23年10月1日から平成24年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、OBARA GROUP株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、OBARA GROUP株式会社の平成24年9月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、OBARA GROUP株式会社が平成24年9月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(※) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年12月21日

OBARA GROUP株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 裕 司 ⑩

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大野 祐 平 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているOBARA GROUP株式会社の平成23年10月1日から平成24年9月30日までの第54期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、OBARA GROUP株式会社の平成24年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (※) 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	内部統制報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の4第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年12月25日
【会社名】	OBARA GROUP株式会社
【英訳名】	Obara Group Incorporated
【代表者の役職氏名】	取締役社長 小 原 康 嗣
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	神奈川県大和市中央林間三丁目2番10号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

取締役社長 小原康嗣は、当社及び連結子会社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の設定について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用している。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものである。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

2 【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である平成24年9月30日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠した。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定している。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行った。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、当社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定した。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響の重要性を考慮して決定しており、当社及び連結子会社20社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定した。なお、連結子会社2社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めていない。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、各事業拠点の前連結会計年度の売上高（連結会社間取引消去後）の金額が高い拠点から合算していき、前連結会計年度の連結売上高の概ね2/3に達している8事業拠点を「重要な事業拠点」とした。なお、当連結会計年度の連結売上高に照らしても評価範囲が十分であることを確認している。選定した重要な事業拠点においては、企業の事業目的に大きく関わる勘定科目として売上高、売掛金及び棚卸資産に至る業務プロセスを評価の対象とした。

さらに選定した重要な事業拠点にかかわらず、それ以外の事業拠点をも含めた範囲について、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセスやリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセスを財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加している。

3 【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社及び連結子会社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断した。

4 【付記事項】

付記事項なし。

5 【特記事項】

特記事項なし。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の2第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年12月25日
【会社名】	OBARA GROUP株式会社
【英訳名】	Obara Group Incorporated
【代表者の役職氏名】	取締役社長 小 原 康 嗣
【最高財務責任者の役職氏名】	該当事項はありません。
【本店の所在の場所】	神奈川県大和市中央林間三丁目2番10号
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【有価証券報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社取締役社長 小原康嗣は、当社の第54期(自 平成23年10月1日 至 平成24年9月30日)の有価証券報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。